

オムニセラピー 手引き書

ver.2.0



日本オムニセラピー協会

はじめに

この手引き書はオムニセラピーの根幹を学ぶために作られたものです。ベーシック、アドバンス、プロフェッショナルコース全ての土台になります。オムニセラピーで目指すもの、そして実現できるものは根本改善です。そしてそれは体だけでなく精神面にもおよびます

暮らしの中での生き心地

これを常に軸としてセラピー、講座は展開していきます

【ベーシックコース】

セラピーを学ぶと並行して、参加者各自が本来の自分を細胞レベルで取り戻していきます。それを実現していく入り口がベーシックコース。セラピーをする上でベースになる、施術・意識の改革・環境作りを学んでいきます。セルフケア（セルフてあて）、家族のケア（家族のてあて）を自信と確信を持ってできるレベルにナビゲートします。

【アドバンスコース】

より緻密に心身の状況を見ていきます。身体をより微細に緻密に施術する方法を学んでいきます。てあて的観点がしっかり染み込むように、繰り返し丁寧な指導を行います。てあて単体でプロとして活動するには不十分ですが、ヨガや他のセラピーと組み合わせて活動していくには十分なレベルです。セルフてあてを人に教える事ができます。

【プロフェッショナルコース】

プロフェッショナルコースでは、文字通り、プロレベルまで仕上げます。手技や意識だけでなく、セラピストとしての在り方、クライアントへの接し方など現場で必要なものを全て教えていきます。

オムニセラピーとはなにか？

オムニセラピーとは

体を細胞 60 兆個の集合体として捉え、細胞のもつ自然治癒力のみを活用し、細胞が本来の元気な状態に戻るサポートをするセラピーです。“**施術**”、“**意識の改革**”、“**環境作り**”の3方向からのアプローチする事によって根本改善を実現し、基本的にセルフであてで調子の良い状態を維持できる自立した状態を目指します。

オムニ (omni-) とは、ラテン語の omnis(すべての)をが由来です。すべての細胞、体・精神・魂のすべて、自他を分けなすべてを扱います。

オムニセラピーの定義する健康な状態

すべての細胞が元気であり心身ともに違和感や不調を感じることなく、今の自分自身に十分満足している状態

オムニセラピーの特徴

- ・ 細胞 60 兆個全ての細胞が対象
- ・ 全ての年齢層に施術できる
- ・ どんな体勢の人にも施術できる
- ・ 手だけでなく全ての部位で施術できる
- ・ 三位一体(体、精神、魂) の全てを使い、全てに変化が起こる
- ・ 自分自身にも施術できる
- ・ 受け手の心身に価値観を押し付けたり、侵入することはしない
- ・ 元気になった細胞は元の元気のない状態には戻らない
- ・ 診断と施術が分かれていない

オムニセラピーを習得する上での土台

座学

- ① **3つの柱**
施術、意識改革、環境作り
- ② **細胞が主役**
体は 60 兆個の細胞という生命の集合体
- ③ **自然治癒力**
細胞が自らを癒し、治る力。オムニセラピーの肝
- ④ **三位一体**
魂が必要な経験をする為には体と精神が必要
- ⑤ **“事実”と“解釈”**
誰にとっても普遍的な事と個々人の捉え方によって変わるもの
- ⑥ **“元気”とは**
オムニセラピーでの“元気”の定義
- ⑦ **最適**
オムニセラピーでは“最適”という表現を好んで使います
- ⑧ **3つの状態**
固体・液体・気体の話
- ⑨ **運動とメンテナンス（整備）**
運動はチェック、オムニセラピーは整備
- ⑩ **医療とてあて**
医療とオムニセラピーの位置付け
- ⑪ **“理解”と“実践”**
仕組みを理解するよりも使いこなす事が大切

オムニセラピーを習得する上での土台

実技

- ① **全てを細胞に委ねる**
細胞ファースト、Meセカンド
- ② **元気な細胞とくすぶり細胞の特徴（その1）**
元気な細胞は柔らかくて温かい。くすぶり細胞は硬くて冷たい。
- ③ **元気な細胞とくすぶり細胞の特徴（その2）**
筋肉、皮膚、骨、神経、各細胞の機能を知ります
- ④ **意識とは何か**
実践する上での重要ポイント。そもそも“意識”とは何なのか
- ⑤ **“意識(私)”を意識する**
意識をどのようにして使うのか。実践具体的方法を学ぶ
- ⑥ **オムニセラピーの基礎練習**
実践の基礎練習をします
- ⑦ **力で進むのはやめましょう**
常にクライアントファースト。施術者の都合は後回しです
- ⑧ **全ての土台はセルフであて**
細胞はどうすると活動が活発になる、もしくは低下する要因
- ⑨ **細胞が元気になると**
細胞が元気になっていくと起こる変化
- ⑩ **細胞にとって最適な環境**
細胞が活動する為に必須な要素
- ⑪ **症状とどう向き合うか**
痛みや違和感に対して具体的にどう“てあて”していくのか

① 3つの柱

1. 施術

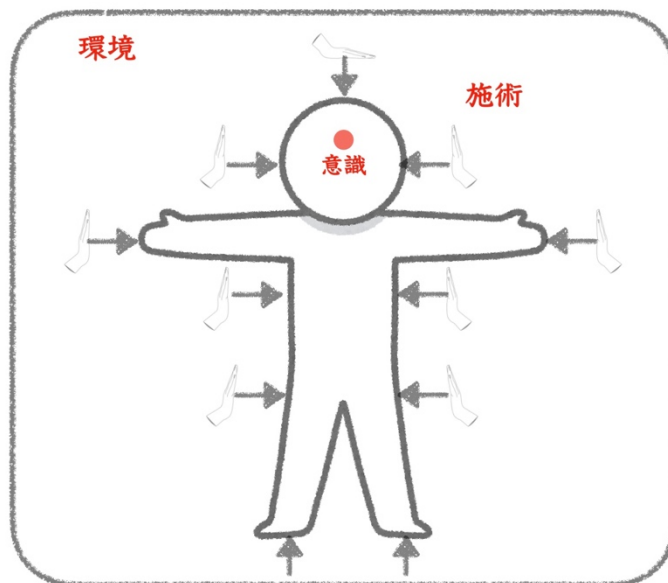
手技、てあて。今まさに本領を発揮しようとしているくすぶり細胞を見つけて、オムニセラピーをします。自然治癒の作用を活用して細胞が本来の元気さを取り戻すための状況作りをします。

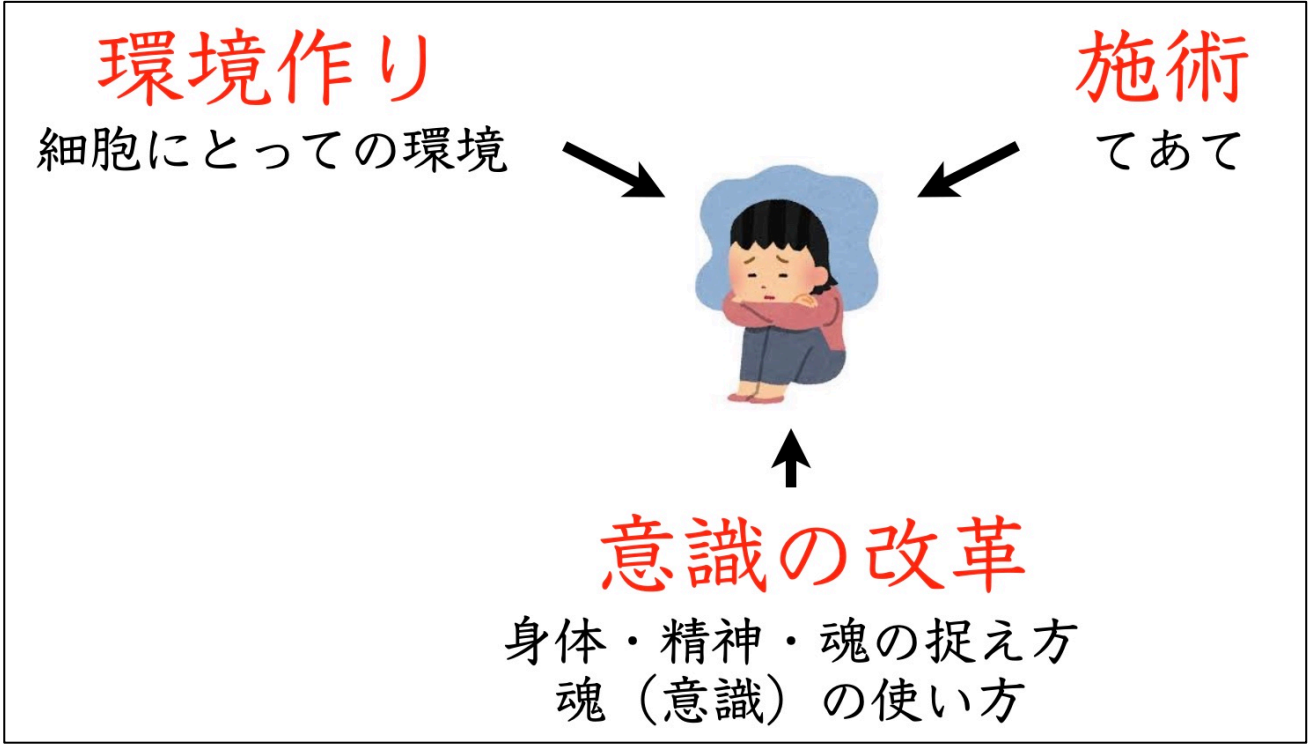
2. 意識の改革

体、精神、魂に対する捉え方を固定観念から紡ぎ直します。それと魂（意識）の使い方も実技でトレーニングしていきます。それぞれの捉え方次第、使い方次第でセラピーの効果が格段に変わります。セラピスト本人だけでなく、施術を通じて意識改革をクライアントへも伝え、レクチャーしていきます。

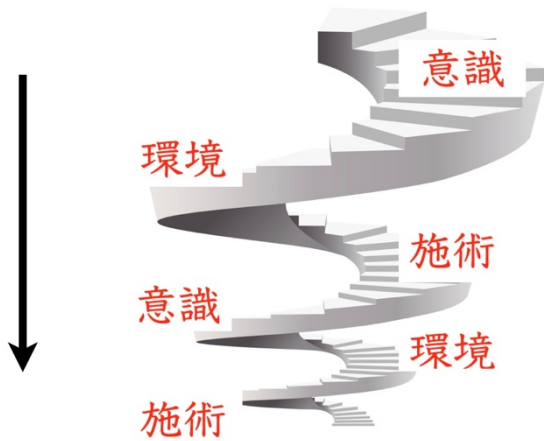
3. 環境作り

細胞が活動するにあたって必要不可欠な要素を知り、日常生活で出来る環境作りをしていきます。細胞はどうすると活動しにくくなるのか。という逆側面からも考察して理解を深めます。

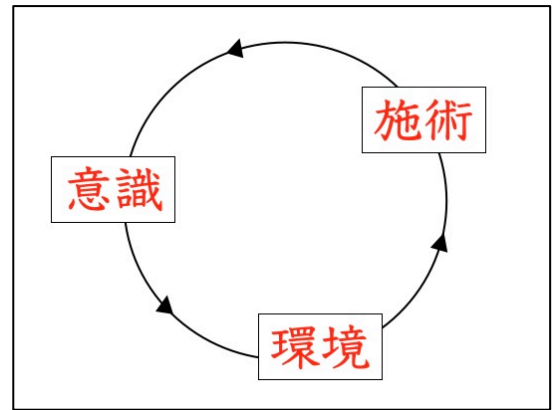




横から見た図



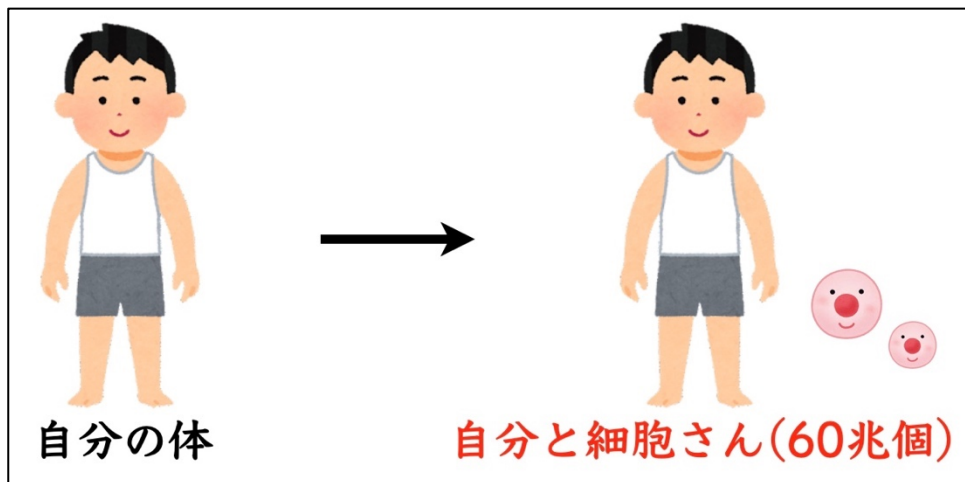
上から見た図



② 細胞が主役

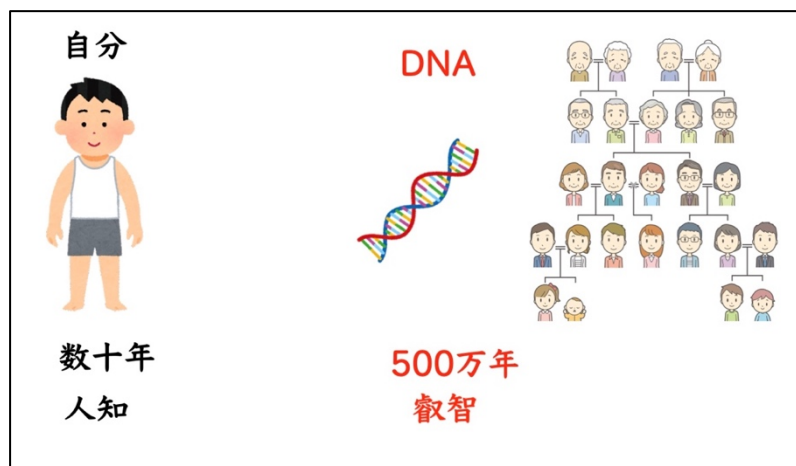
体は所有物ではない

体、肉体は私たちの所有物ではなく細胞という生命体 60 兆個の集合体であり、細胞には細胞の意識や意志があります。



DNA

細胞は瞬間瞬間、代謝しており、一日にりんご一個分入れ替わっているとされています。自分たちで自分たちを作る能力もあるし、DNA（遺伝子）という設計図も持っています。



500 万年と数十年

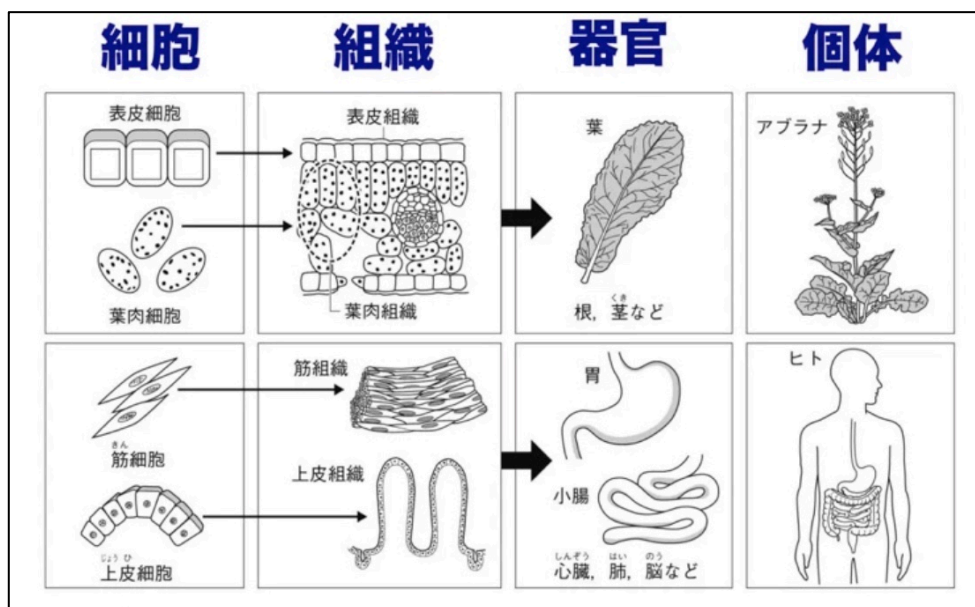
地球が誕生して 46 億年、地球での初めての生命が誕生して 35 億年、人類の起源は諸説がありますが、猿人までさかのぼると 500 万年の歴史があるそうです。つまり、今生きている私達は 500 万年の命のたすきを繋いできた生存において勝者といえます。そしてその DNA には 500 万年分の経験が蓄積されています。

それと比べると、私たちの実年齢はどれだけ短いのでしょうか。

体は細胞でできている

細胞がある程度集まったものを「組織」と呼び
組織がある程度集まったのを「器官」と呼び
器官が集まって体（ヒト）と呼ぶように現代は分類しています

つまり体は細胞の集合体であり、根本的な改善を目指すならばこの細胞に着目するありません。



③ 自然治癒力

治療と治癒

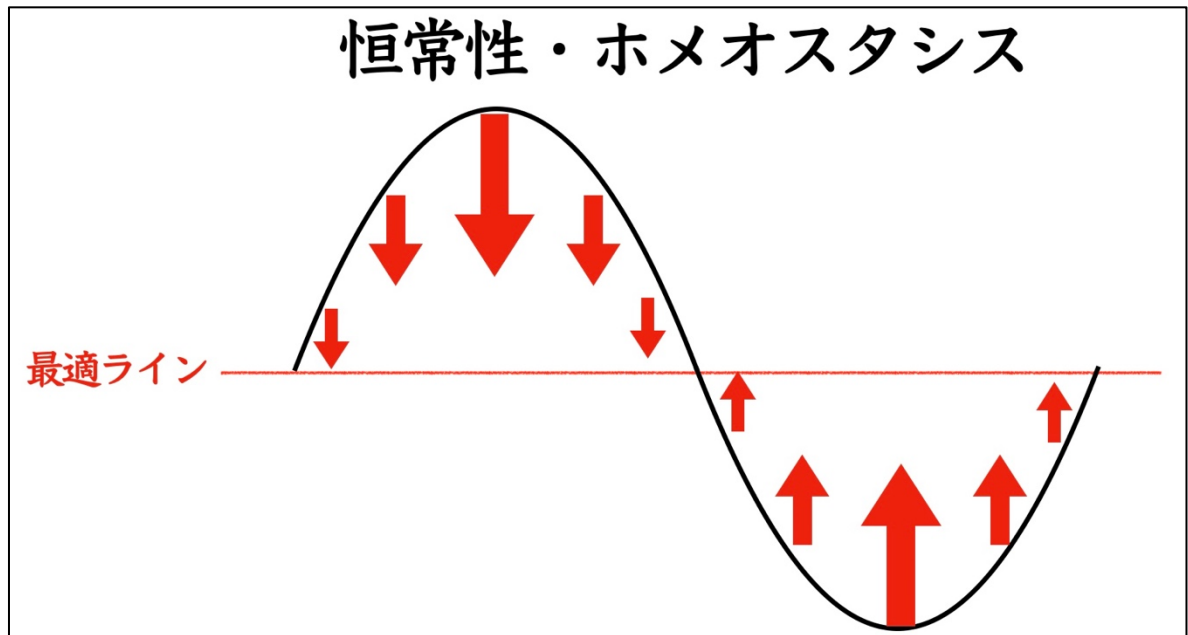
治療は『治す』、治癒は『治る』。それぞれ主語は何になるか？
主人公はあくまで体であり細胞。私たちが体を治すのではなく、
細胞たちが体を治すのです。私たちができる事はそれをサポート
する事だけです。

治療	 りょう 【療】リョウ（レウ）いやす 病気をなおす。 「療法・療養・療治(りょうじ)・療病・加療・診療療法」	
	 ゆ 【癒】(癒)ユ・いえる・いやす 病気や傷がなおる。 「治癒・平癒・全癒・快癒・癒着」	

最適な状態に戻す力（恒常性・ホメオスタシス）

自然治癒力は、免疫力や適応力など様々な表現があります。それをシンプルにすると図のようになります。内外からの影響で最適な状態から離れていきます。例えば体温などがわかりやすい例です。気温が下がると代謝を上げて体温を最適な状態に戻します。逆に気温が上がると発汗して体温を下げようとします。

最適から離れれば離れるほど戻そうとする力は大きくなります。



自然治癒力は細胞の元気さそのもの

細胞が元気に活動していれば自然治癒力は高く、細胞の活動が低下していれば自然治癒力は低い状態になります。自然治癒力と細胞の活動量（元気さ）は同義語です。

自然治癒力



低



高

④ 三位一体

“自分”とは魂であり、意識である

オムニセラピーでは、“自分”とは魂・霊体 (Spirit) であり、その魂はエネルギー体であると捉えます。そしてエネルギー体だけでこの3次元 (物質の世界) である地球では物を触る事も感じる事もできません。ではどうすればいいのか？

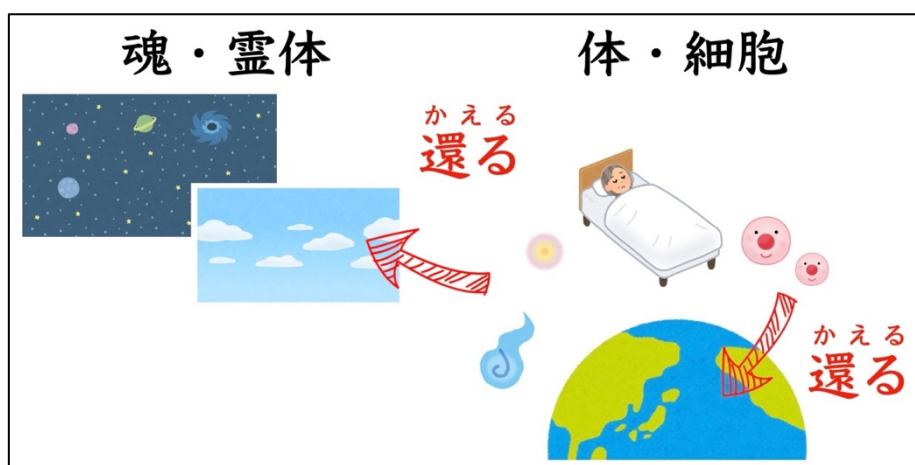
そこで体 (Body) が登場します。魂は体に宿る事で初めて地球での経験を積むことができるようになります。魂は体に宿ると、意識と呼ばれるようになります。体 (細胞) は自分の所有物ではなくこの地球で生きていく為に宿らせて頂いているパートナーという事です。

そして精神 (Mind) は神経細胞、特に中枢神経の状況を表してくれています。つまり、体は皮膚、筋肉、骨などの細胞。精神は神経系の細胞です。



魂が選んだ経験をしている

この世に生まれる前に、魂として経験したい事を決め、それに最適な惑星、場所、時代、性別、容姿、フォームを決めて転生していると考えます。



魂の経験と細胞の状態

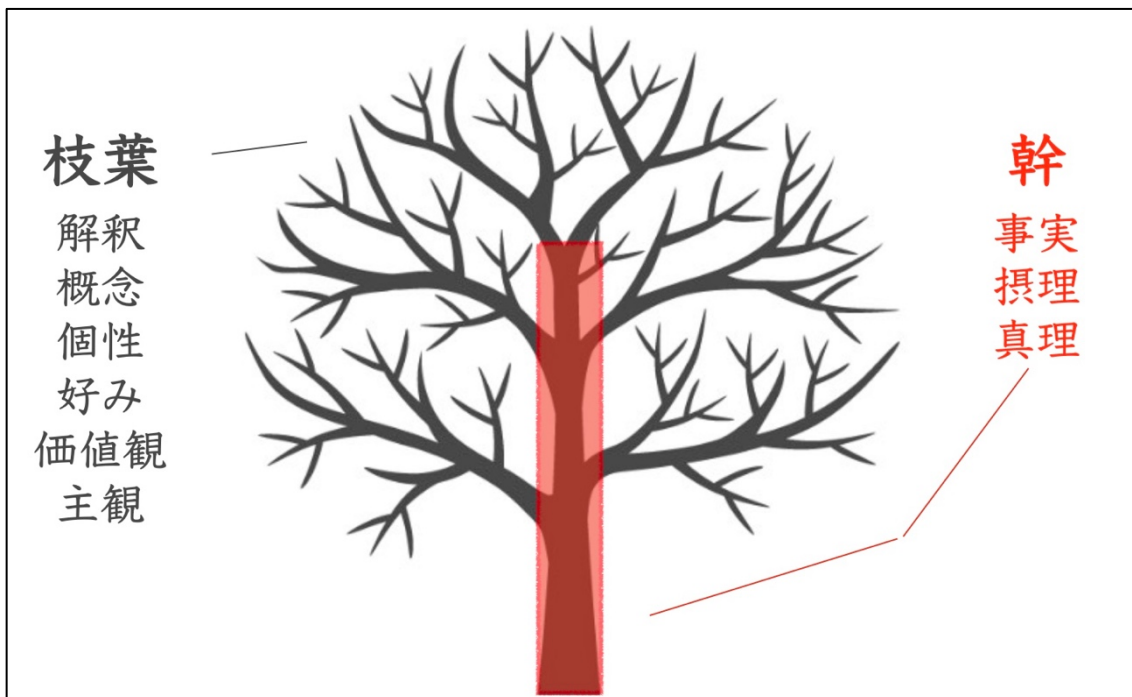
魂が望む経験をする為に細胞というパートナーがいます。そして魂からのオーダーに応えるべく細胞は日々活動しています。恐らく宿った時点で今世のオーダーが渡されています。細胞は外界からくる様々な情報（五感でキャッチするもの）を私たち意識にアレンジして届けてくれます。

⑤ “事実”と”解釈”

樹木のよう

“事実”という幹から、枝葉に分かれて“解釈”が生まれます。そして解釈とは概念です。現代の社会はこの概念が中心で作られています。その結果、自分がどう感か考えるかよりも他人がどう考えるのか、自分がどう感じるかよりも他人はどう感じるのか。したい事よりもすべき事。を気にするような傾向がまだまだ強くあります。概念はあくまで概念。人それぞれ違って当たり前です。

まず大切なのは事実。つまり、あなたがそれを見てどう考えるのか。それを触ってどう感じるか。何をしたいのか。



幹と枝葉

万人にとって共通な事柄が幹の部分。枝葉は人によって違います。関係性の中でどこまでが幹でどこからが枝葉なのか。それを見極めることです。

枝葉は個性の種であり優劣の種

枝葉の部分が先行して会話が進むと、交わりがなくなるので。どちらが正しいとか。どちらが優れているとか。そういう話になる事が不可避になります。分かれる前の幹や枝に戻って、会話を進め。枝分かれした場合は、個性として尊重し合う事が大切だと考えます。

幹と枝葉の特徴

幹：解釈の入る余地がない

枝葉：色々な解釈ができる



⑥ “元氣”とは

元氣とは

元氣とは文字通り“元”の“氣”。元とは“本来の”、そして氣とは“エネルギー状態”です。つまり、元氣とはエネルギーレベルまで本来の自分である状態とオムニであてでは考えます。そして元氣というのは本来の力（本領）が発揮できている状態です。

多い少ないではない

つまり元氣さとは、多い少ないではなく本来の自分からの“ズレ”と言えます。元氣がないから“エネルギー”を補充するとうより発想ではなく、元の状態に戻ればエネルギーは自然と本来の輝きを取り戻していきます。

元氣と病気

元氣の対義語は病気です。ここでいう“病気”とは医学的な狭義的なものではなく、氣が病んでいる状態を指します。元氣から離れている状態それがオムニであてで考える病気です。本来の力（本領）を発揮できていない状態です。

元氣でない細胞（病気の細胞）を「くすぶり細胞」と呼びます。

元氣 = **本来の自分**、本領発揮できている状態

病気 = **本来から離れた自分**、本領発揮できていない状態



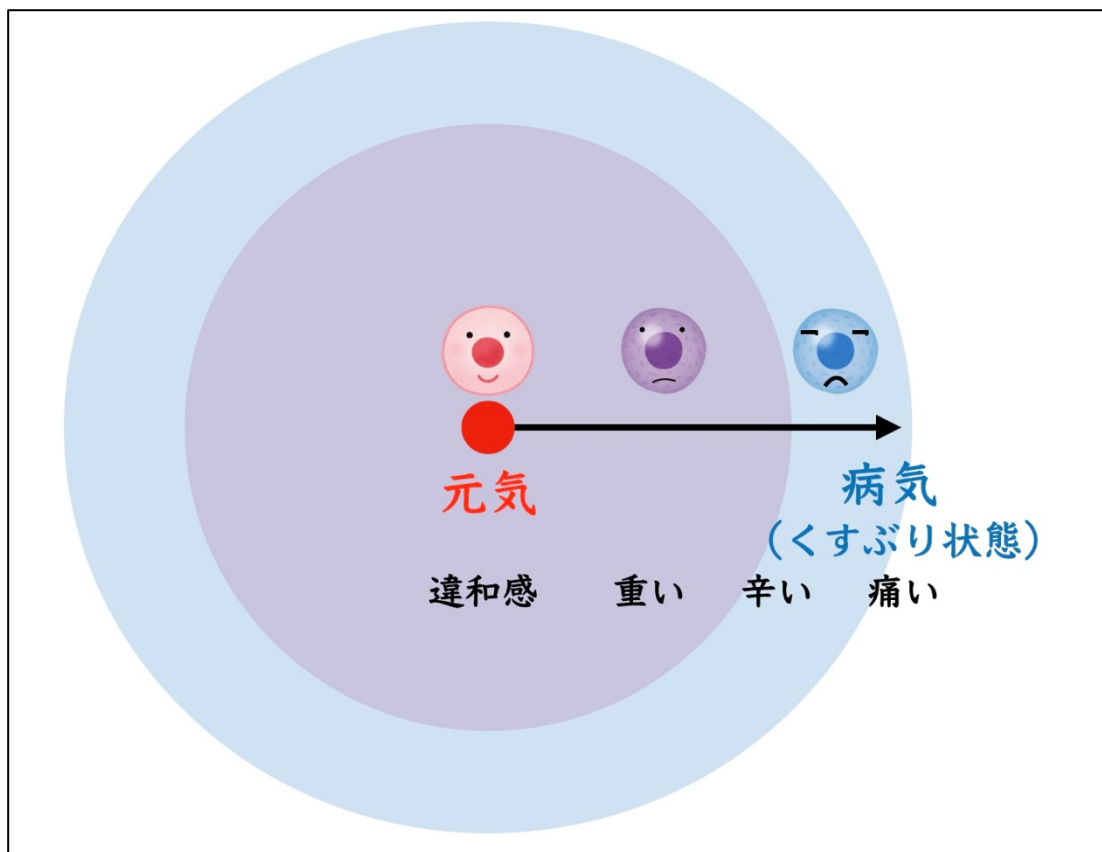
くすぶっている

違和感

本来の場所（元気）から離れると、“違和感”を感じます。そして、さらに離れて行くと共に違和感→重さ→辛さ→痛みが変わっていきます。

元気に戻るには

元気に戻るためには、元気から離れないことです。プラスの事をしようとするのではなくて違和感を感じる方に進まないこと。それがとても大切です。

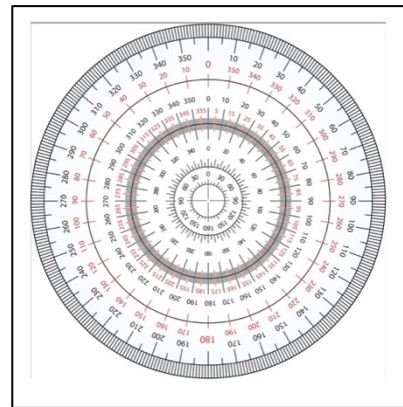


元の状態から離れれば離れるほど**違和感**↑

⑦ 最適

最適

オムニセラピーでは”最適”という表現を好んで使います。人間は、地球や人体を創った訳ではないので何が正解で何が不正解かを判断できる立場にありません。しかし、答えがわからない中でも常に私たちは選択に迫られます。その羅針盤としての役割を担うのが、”最適”という表現であると考えます。



“今”の“自分”

“最適”という表現はとても曖昧で時や場合によって最適は違います。そんな中で、最適という羅針盤を使う為の一つのコツは「“今”の“自分”は」というフレーズを考えや感じた事に付けることです。

今の自分は

自然界はいつも最適解

自然界はいつも”最適解”を出し続けていると考えます。しかもそれは他の存在との調和を保った状態での最適。言い方を変えると自然に抗わずに成るがままにすると最適になるとも言えます。

川の流れ

海の水が温められて蒸発をして雲になる。雲は風に流されて山にぶつかり雲になって雨が降る。そしてそれは高い所から低い所へ流れはじめて。やがて川となって海に帰っていく。高い所から低い所へ流れていく川。人間が考える最善、最短、最良だと直線にしがち。だけれども、自然界の出す最適解は、時には何かを破壊し時にはこちらが折れ。結果、最善がグネグネというねりの模様になる。

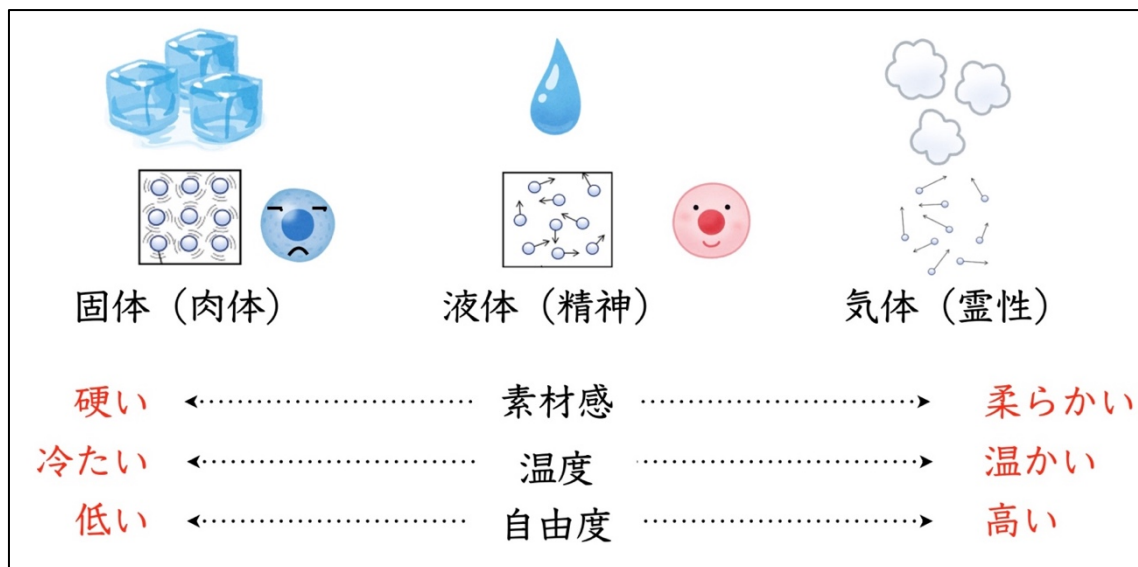


最適解

⑧ 3つの状態

三態（さんたい）

純粋な物質のとり三つの状態。温度と圧力により、一般的に固体・液体・気体のいずれかをとる。温度を下げる、ないし圧力を加えていくと気体が液体になり、液体が固体になる。



固体の特徴

気体や液体に比べると素材感は固く、温度、自由度は低い。エネルギーが抑え込まれている状態。形が定まっており器なしで形が維持できる。明らかに目に見えて触れることができる。

液体の特徴

素材感、温度、自由度、いずれも固体と気体の間の特徴を示す。形が不確定で器に合わせて形が変わる。目に見えて触れることはできる。

気体の特徴

固体や液体に比べると素材感は柔らかく、温度、自由度は高い。エネルギーが発露している状態。液体以上に形が不安定で器に留めるのにも工夫が必要。目に見える場合もあれば見えない場合もある。触れる事ができる場合もあれば、できない場合もある。

三位一体と三態

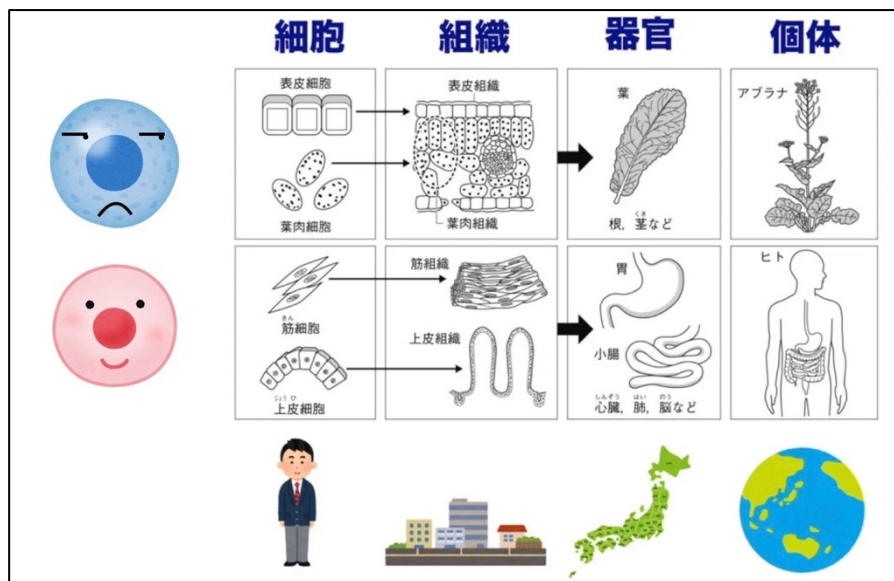
オムニセラピーでは、肉体・精神・霊性はこの三態に似ていると捉えます。肉体は固体、精神は液体、霊性は気体。大切なポイントは、肉体・精神・霊性がそれぞれ別なものとして存在しているのではなく、状態が違う側面を表しているという点にあります。どれも細胞の状態を表しています。



⑨ 運動とメンテナンス（整備）

どんな細胞の状態を使うのか

体も脳みそも全て細胞でできています。つまり“運動をする”事も“考える”事も細胞が行なっているという事です。動かす前に細胞がどんな状態であるかを意識する必要があります。同じ運動をするにして“どう動かすか”よりも以前に、“細胞がどんな状態か”に意識を向ける必要があります。細胞がくすぶっている状態と、元気な状態、どちらの方が思うようなパフォーマンスができるでしょうか？



動かす、その前に・・・

動かす、考える、など動的な事をするその前に、細胞の状態に気を払いましょう。オムニセラピーの3つの柱、施術・意識改革環境を軸に動かす為の準備をします。

“動”と”静”

オムニセラピーでは、運動や考える事は細胞の状態を知る為のバロメーターとして使います。動かす、考える、生活をする、生きる。こうした日々の営みを行なってみると細胞の状態が表面化します。違和感やさ、痛みがある場合は、細胞のメンテナンスが必要なサイン。そうした場合は、速やかに体や頭を使う事を止めてメンテナンス（てあて）をしましょう。

メンテナンスの要素

施術・意識・環境の3つの要素でメンテナンスをします。

施術

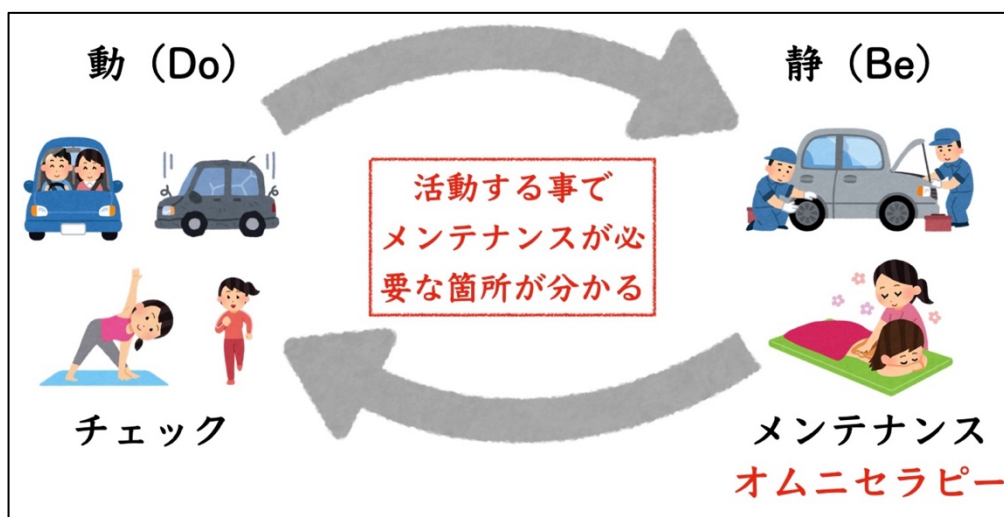
痛み、辛さ、重さ、違和感。トラウマや思考。存在感。

意識

細胞の関係は大丈夫か。意識は向けるに集中しているか

環境

細胞が活動しやすい環境は整っているか



⑩ 医療とてあて

全ては必要があって存在している

オムニセラピーでは、全ては必要があって存在していると考えます。誰にとって必要なのか？それは地球なのか、宇宙なのか分かりませんが、必要ないものは存在できないと考えます。不要なものが存在するという発想は、単に人間や個人にとって都合が悪かったり、理解が及ばないに過ぎないだけです。医療や現代科学、化学物質など不要論が唱えられている場面もありますが、オムニセラピーでは医療も必要があって存在していると考えます。

医療にしかできない事

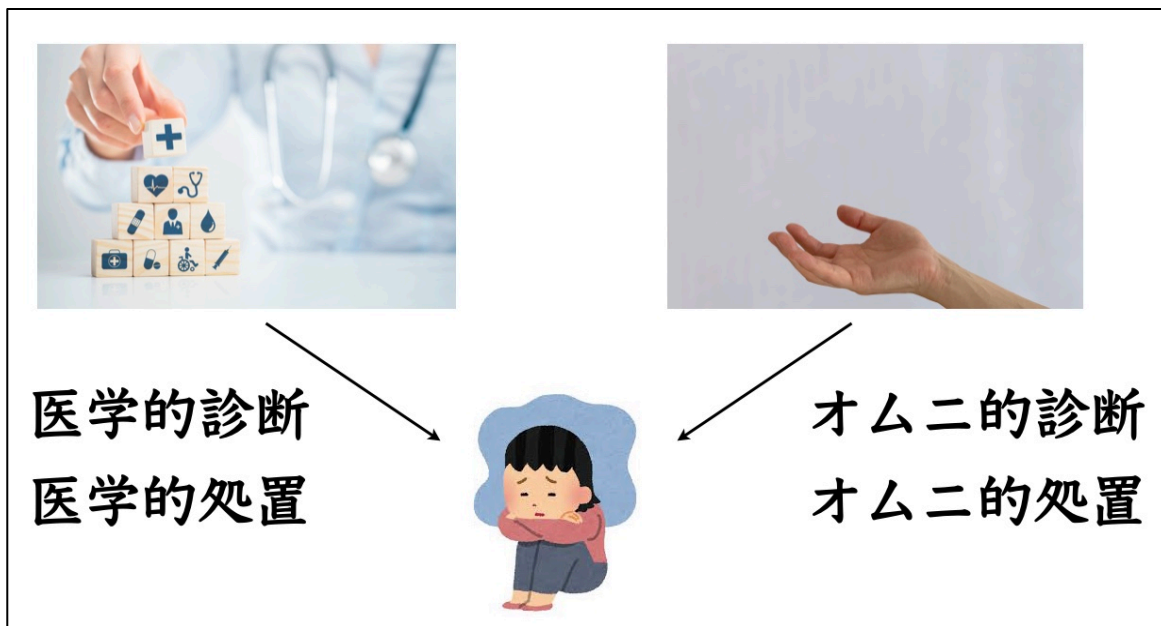
手術や救急救命など医療には医療にしかできない事があります。他の療法に関しても同様です。オムニセラピーには、オムニセラピーにしかできない事があり、ヨガにはヨガにしかできない事があります。それこそが存在意義であり、必要性です。この”〇〇にしかできない”を追求していけばその物事は洗練され熟成していくでしょうし、逆に汎用性を追求していけばその療法の存在意義や必要性は薄まっていきます。

てあてにしかできないこと

それはずばり、2 ページ目の”てあての特徴”そのものです。

医療とてあて

医療とオムニセラピーは、ある意味対局にある療法といえます。侵略性、体に向き合うスタンスなど。医療にしても、てあてにしても、他の療法にしても、各療法が編み出した**診断方法**に基づいて、各療法の術で**施術**する事が大切だと考えます。ポイントは診断と施術の一貫性です。



オムニ的診断 → 細胞の状態

オムニ的処置 → 3つの柱 (施術・意識・環境)

診断と施術法の一貫性

⑪ “理解”と”実践”

事実と解釈

座学⑤（摂理と好み）でも出てきた通り、物事には事実と解釈があります。これを理解と実践の言葉で置き換えると、”実践”が事実であり”理解”は解釈にあたります

オムニセラピーで起こる現象は程度の差はあれ誰にでも漏れなく起こります。どのような仕組みでそれが起こっているのか？それは本当のところは分かりません。このテキストに書かれている内容もあくまで僕の解釈。僕が長年目の当たりにしてきた現象や経験から編み出した解釈の一つでしかありません。解釈は様々あってよいと思います。大切なのは、

実際に目の前で起こっている事、あなたが感じた事

です。違和感に気が付く為にも思考的ではなく実践、実験、試行の中で模索し続ける事が大切です。

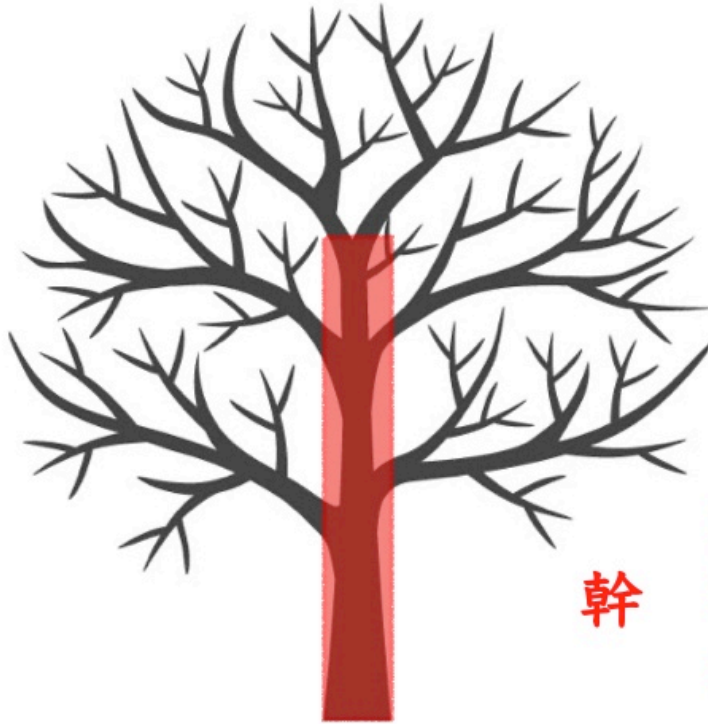
理解するというのは事実を分類（カテゴライズ）するだけに過ぎません。分からなくなったら、まず触る。不安が無くなるまで触る。徹底的な実践を中心に練習を重ねていってください。

経験を積みあげていく事で、てあてが血や肉となり使いこなし、その言わんとしている事が内側からわかるはずです。

事実は解釈の入る余地がありません。いつだって事実や摂理と共に進んで行きましょう

枝葉

好み
価値観
個性
解釈
主観



幹

摂理
真理
事実



実技



ここからは実技のページです。コースでの実践を踏まえながら読み、疑問が浮かぶたびに読み返すとガイドラインになる内容になっています。オムニセラピーでは固定観念や従来の慣例の真逆な捉え方も登場します。一度で理解するというよりは、“わかった！”と思った次の瞬間には、わからなくなってしまう。その繰り返しで自分の血と肉になっていきます。

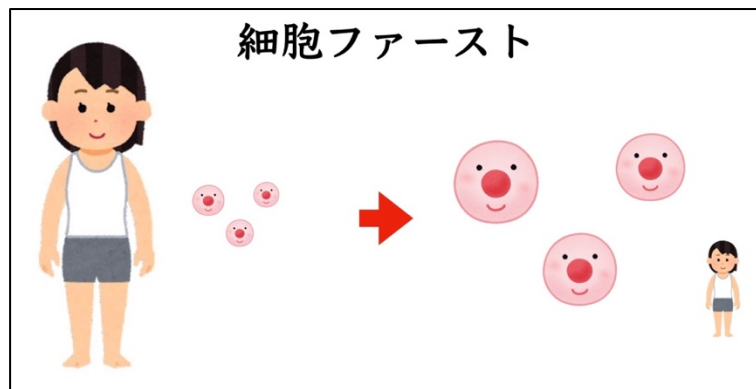
“理解する事”と”できるようになる事”は繋がっているようで繋がっていません。その事をしっかり踏まえていきましょう。

オムニセラピーではそれが特に大きく影響します。『意識を向けるとそれが起こる』その事実をしっかり寄り添い、解釈が事実を曲げないように、実践第一主義で歩んでいきましょう

① 全てを細胞に委ねる

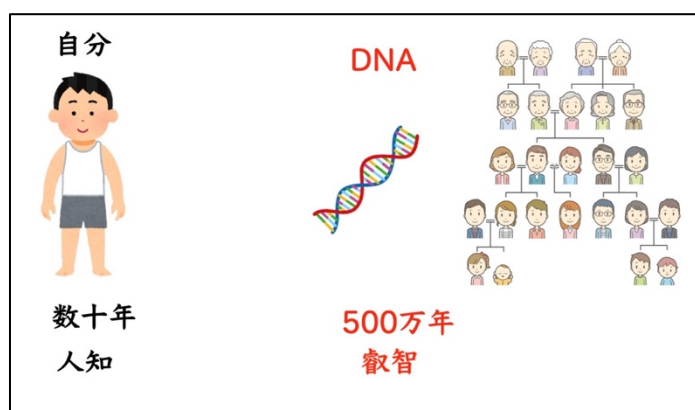
細胞ファースト、Me セカンド

細胞が活動してくれているおかげで僕たちは呼吸ができ、生き、この地球で活動する事ができています。その事を忘れる事なく、“私 (Me)” の理解や納得は例外なくどこまでも二の次にします。まずは細胞たちが自由に伸び伸びと活動できる状況を第一に考えていきましょう。オムニセラピーではどこまでも細胞が主役です。



細胞は設計図も能力も持っている

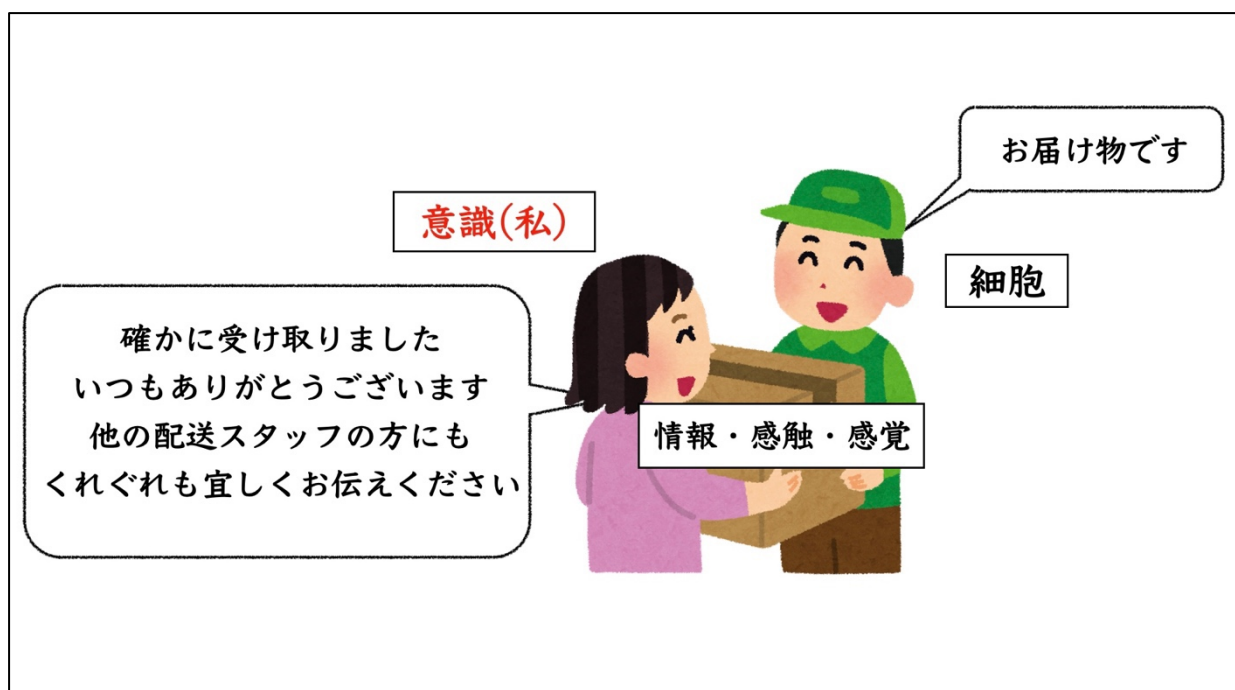
細胞は瞬間瞬間、生まれ変わっています。一日にりんご一個分入れ替わっていると言われていています。自分たちで自分たちを作る能力もあるし、DNA という設計図も持っています。



施術では”意識（私）”の使い方が最大のポイント

実践でポイントとなるのが“意識（私）”の使い方です。特にてあてでは、クライアントと施術者という立場、治してあげたい。どうにかしてあげたい。という気持ちのあまり、“自分が”頑張ろうとしてしまいます。そしてその結果、意識（私）が“クライアントの方に近づいてしまい、意識の本来の居場所から離れる結果になってしまいます。

“私”は頑張る必要はないのです。私（意識）は何かをする実行役ではなく、細胞たちが届けてくれる情報、感触、感覚をしっかりと受け取り、「届いているよ、ありがとう」と返事をし続ける事です。それが私（意識）の役割です。何かを実行するのは地球においては細胞たちなのです。



② 元気な細胞とくすぶり細胞の特徴（その1）

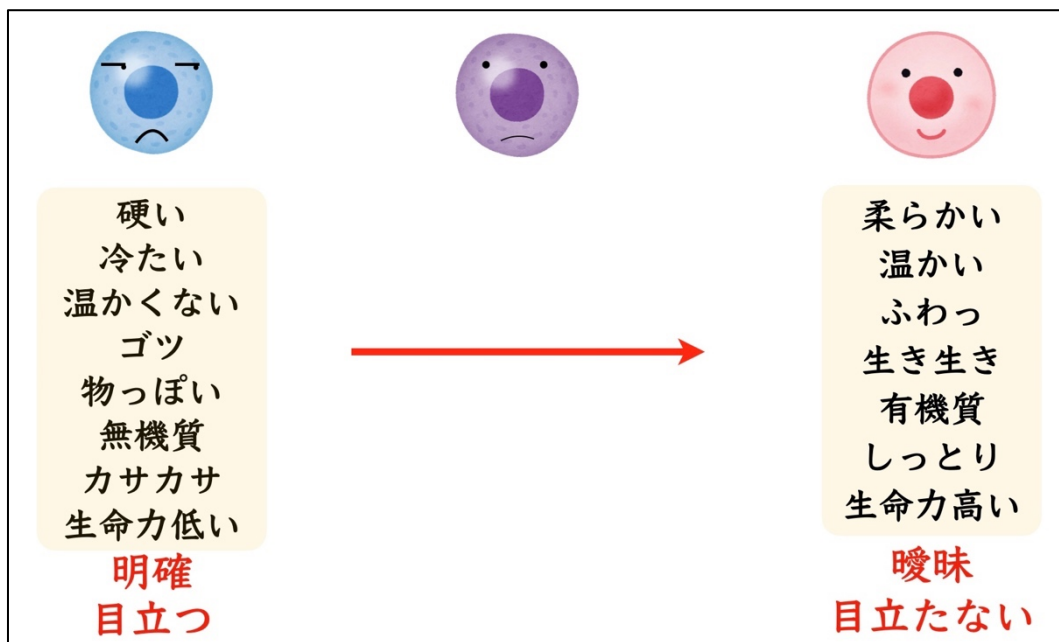
違いを知る

セラピーでの最大のポイントは、元気な細胞とくすぶり細胞の違いを知る事です。理解するというよりも色々な人を触っていくうちに細胞の状態によって感触が違ふという事がわかってきます。違いがわからなくても施術はできますが、きちんと施術が進んでいるというバロメータを知る事で安心してセラピーを進めていく事ができます。

存在感の濃さ（目立つ）

元気な細胞とくすぶり細胞の違いを一言で言い表すと、存在感の濃さです。細胞は「今はこのままがいいよ」と言う場合は存在感が薄いかもしれないし無い。「今はこのままじゃ嫌だよ」と言う場合は存在感が濃くなります。存在を知覚できる箇所は全てセラピー対象になります

元気な細胞: 存在感・感触・感覚が曖昧
くすぶり細胞: 存在感・感触・感覚が明確



くすぶり細胞ができる原因

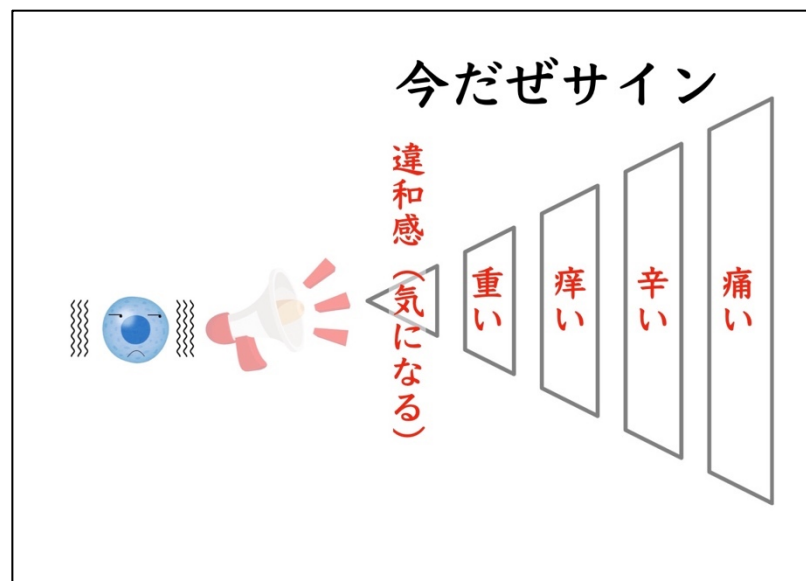
くすぶり細胞ができる原因、それはズバリ遺伝です。これは完全に経験則です。遺伝とは言っても後天的にどうにでもなる遺伝です。“親から受け継ぐ”と表現してもいいかもしれませんが。私たちの体は元々母親と父親からできた一つの受精卵が分裂してできました。そして産まれる前まで母親の体の一部であった事を考えると受け継ぐのも仕方がないのかもしれませんが。

一般的に思われがちな、生活習慣はくすぶり細胞ができる原因にはなりません。むしろ、くすぶり細胞の分布に応じて生活習慣が決定していると言えます。

今だけサイン

くすぶり細胞であっても、「今」その状態から解き放たないかは細胞のみぞ知るところです。今、解き放たれたい細胞はサインを出します。それが痛みや辛さです。

サインの大きい順に、痛い、辛い、痒い、重い、違和感（気になる）



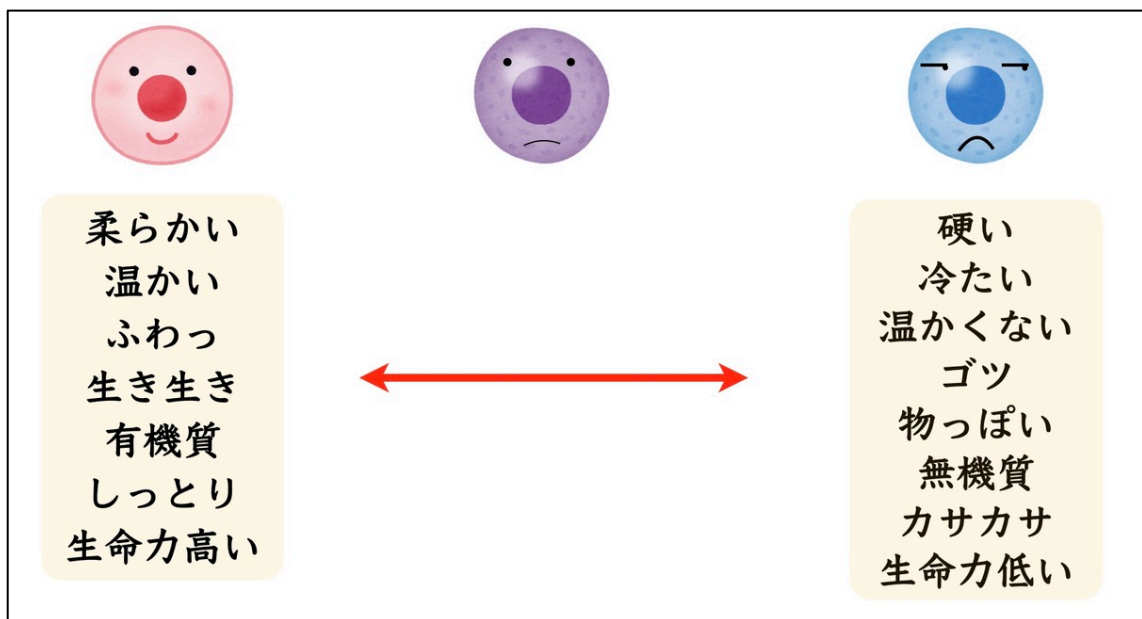
③ 元気な細胞とくすぶり細胞の特徴（その2）

元気な細胞の特徴

- ・ 柔らかい
- ・ 温かい
- ・ ふわっとしている
- ・ 生き生きしている（有機質）
- ・ しっとりしている
- ・ 生命を育めそう

くすぶり細胞の特徴

- ・ 硬い
- ・ 冷たい、温かくない
- ・ ゴツツとしている
- ・ 物っぽい（無機質）
- ・ カサカサしている
- ・ 生命が育めなさそう



細胞は大きく分けて2つある

1. 筋肉、皮膚、骨などの細胞（全般的に首から下）
2. 神経細胞（全般的に首から上）

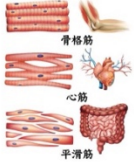
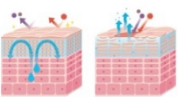


細胞の状況がそれぞれの機能に直結します。なぜならば、すべての機能は細胞が働いて起こっているからです。

筋肉：体を動かす、体を安定させる、衝撃吸収、血管・臓器の保護
血液のポンプ、免疫を上げる、ホルモンの生産、水分を蓄る

皮膚：保護作用、呼吸作用、分泌・排泄作用、体温調整、吸収作用
知覚作用、表現作用

骨：身体を支える、運動の支点、内臓を守る、血液を作る
カルシウムを蓄える

神経：① 皮膚や身体の様々な部位から情報を脳に送る
② 送られてきた情報を分析・整理・判断し、その情報に
応じて決定をください。
③ その決定を末梢に伝える

<p>筋肉</p> 	<p>体を動かす、体を安定させる、衝撃吸収 血管・臓器の保護、血液のポンプ、免疫を上げる ホルモンの生産、水分を蓄える</p>
<p>皮膚</p> 	<p>保護作用、呼吸作用、分泌・排泄作用、体温調整 吸収作用、知覚作用、表現作用</p>
<p>骨</p> 	<p>身体を支える、運動の支点、内臓を守る、血液を作る カルシウムを蓄える</p>
<p>神経</p> 	<p>① 皮膚や身体の様々な部位から情報を脳に送る ② 送られてきた情報を分析・整理・判断し、その情報に 応じて決定をください。 ③ その決定を末梢に伝える。</p>

④ 意識とは何か

意識とは

座学③「三位一体」で話した通り意識とは魂であり、その魂が体に宿ると「意識」として認識されるようになります。この意識こそが自分自身です。



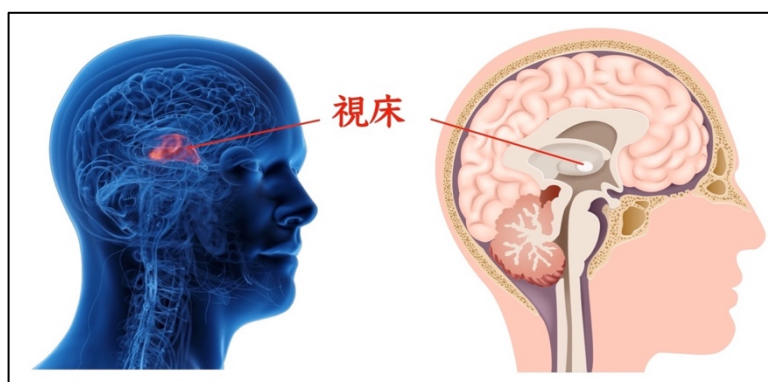
意識のある場所

意識は一体どこにあるのでしょうか？まずは感覚的にどの辺りにありそうかを確認してみましょう。

目を瞑って自分を意識すると、意識の在りどころがわかります。猿を使った実験では意識は脳の視床という部分という事が分かっているようです。視床は頭を中心に位置しています。

それを踏まえて、再び目を閉じて自分の意識がある場所を感じてみましょう。頭を中心の方に在る感じがすると思います。

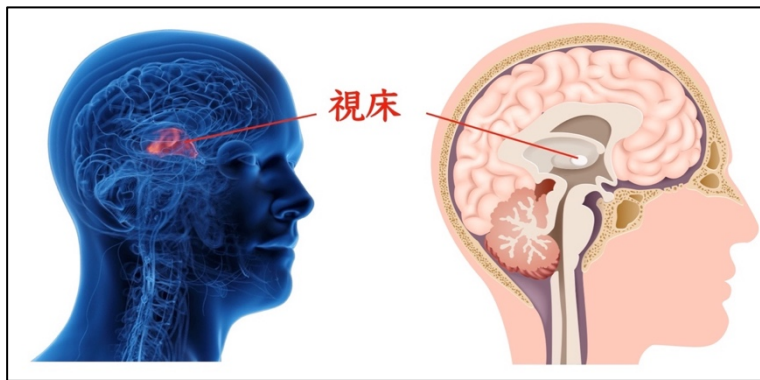
意識（あなた）の居場所はそこです。何をしても意識がそこから動かないように気をつけましょう。



⑤ “意識(私)”を意識する

意識(私)はその場所から離れない

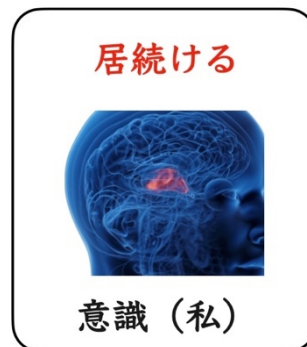
“意識”を意識する上で大切なファーストステップは、意識の居場所を感覚的に掴み、そこから離れないようにする事です。大まかな位置は図の通りですが、細かい位置は“意識”を意識しながら掴んでいきましょう。現代は気（意識）を引くものに溢れています。意識していないと簡単にその場所から意識が離れてしまいます。



意識(私)の役割とは？

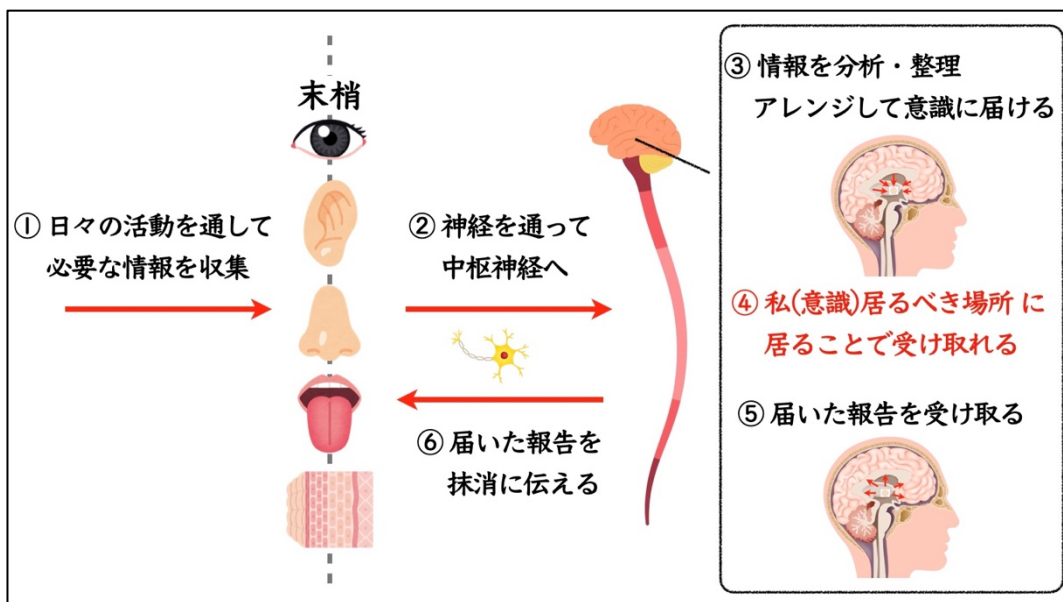
細胞の役割は人としての地球での活動すべてです。この世は全て細胞の所業です。歩く、呼吸する、食べる、寝る、考える、仕事をする、例外なく全てです。そしてこの活動を通してその時に必要な情報・感触・感覚をアレンジして意識（魂）に届けます。ということは、意識体である私たちがする事は1つです

そこに居続けること



そこに居るからこそ受け取れる

前述したように、意識(私)たちの役割は細胞が届けてくれた情報・感触・感覚を受け取る事です。そして、受け取る為に必要な事は、居るべき場所に居続ける事です。そこにさえ居れば受け取れるし、そこに居ないと不在伝票が入り続けます。そして、あなたの今世のストーリーは進みずらくなります



⑥ オムニセラピーの基礎練習

セラピーの基礎

ここまで細胞と意識、それぞれをオムニセラピー的な解釈を学んできました。このセンテンスでは実践の基礎を練習していきます。

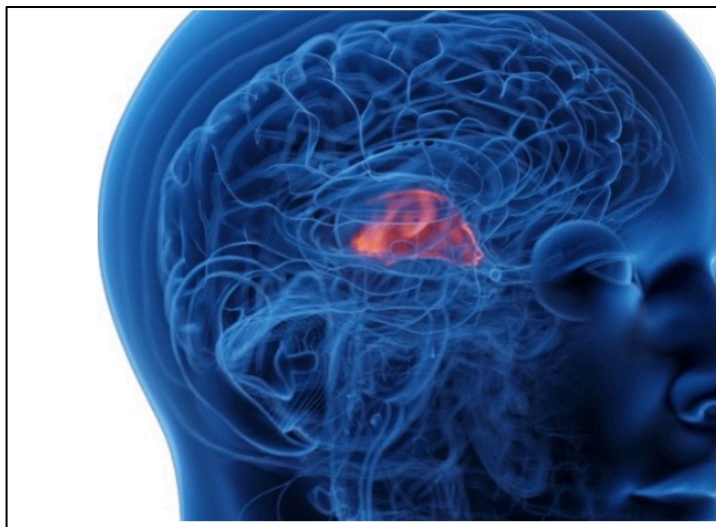
ポイントは3つです

- ① “意識”の場所を意識してそこから離れない
- ② 細胞に感謝の意を込めつつ受け取り報告をする
- ③ しっかり呼吸する（酸素をしっかりと取り込む）

一つずつポイントを押さえていきます

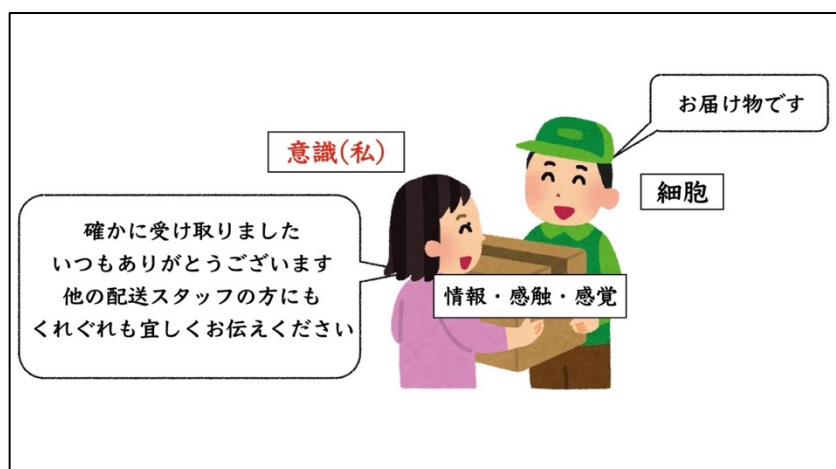
① セラピーの基礎“意識”の場所を意識して、そこから離れない

細胞にも魂にも決まったポジショニングがあります。全ては居るべき場所（居場所）に居てこそ本領が発揮できます。頭の奥にある居場所をいつも意識しましょう。慣れるまでは目を瞑り意識の場所を確認するようにしましょう。



② 細胞に感謝の意を込めつつ受け取り報告をする

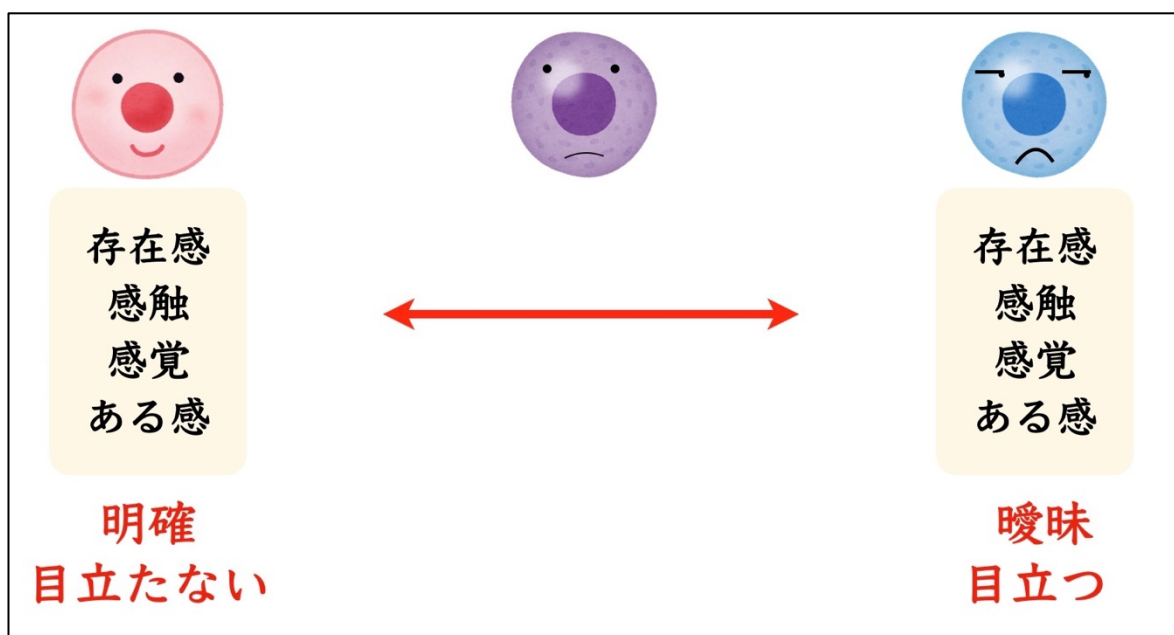
細胞は常に私たち意識(魂)の経験を実現するべく、受精からこの世を去るまで必要な材料(情報・刺激)を探して、集めて、脳に伝えて、処理して、記憶して、そして私たち意識に届けてくれます。それをあれこれジャッジしたりせずに、ありがたく受け取りましょう。私たちはこの地球に必要な経験をする為に転生しています。経験とは100%受け身の行為です。



③ しっかり呼吸をする (酸素をしっかり取り込む)

私たちが食べたものは栄養分として水に溶けた状態で細胞内のミトコンドリアというエネルギー生産工場に運ばれます。これを酸素で燃やしてエネルギーを作っています。つまり、酸素が十分か不十分かは細胞の活動量に直結します。





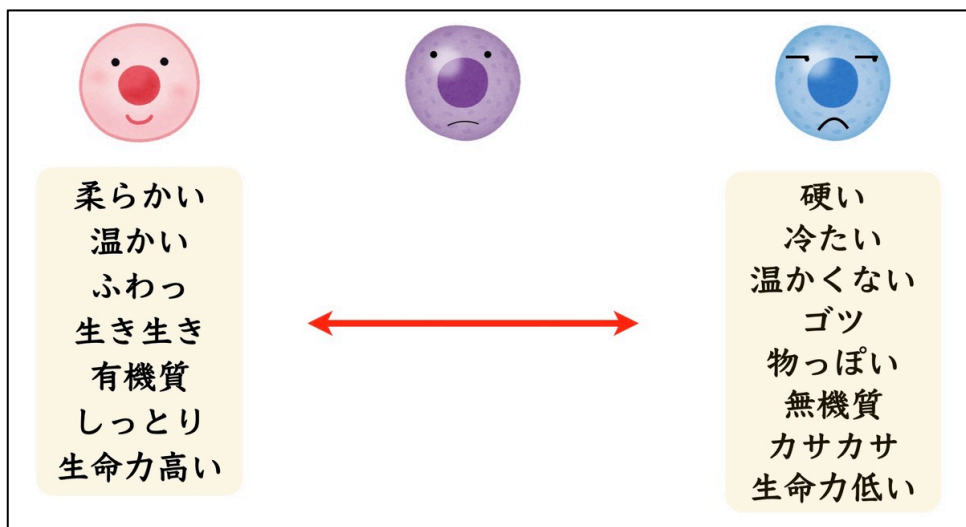
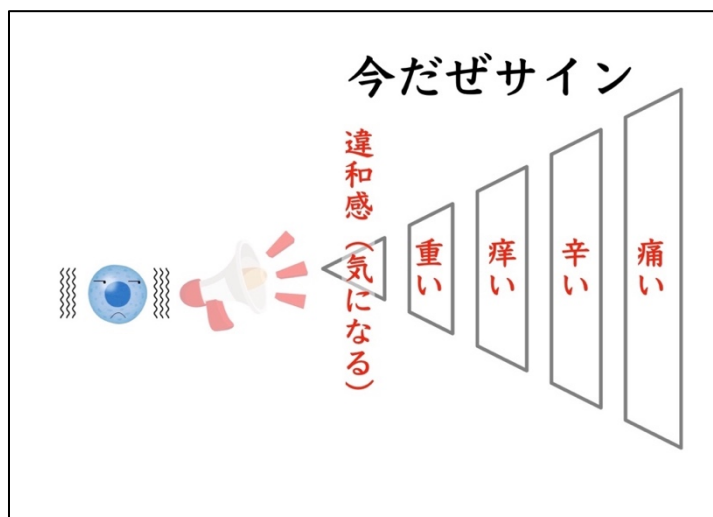
意識(私)が認識できるものは全てお届け物

意識が認識できるものは全て細胞からのお届け物です。五感で感じたもの、思考、想像など認識できるものは例外なく全てです。形容の仕方は様々ですが「痛い」「硬い」とか形容するとややこしくなる一方です。リラックスしても認識できるもの全てです。

今だけサインと意識

くすぶり細胞であっても、「今」その状態から解き放たたいかは細胞のみぞ知るところです。今、解き放たれたい細胞はサインを出します。それが痛みや辛さです。サイン（存在感）が大きい方が何度も送り届けようとしたけれど、不在であった証拠です。今すぐ受け取り報告をしましょう。

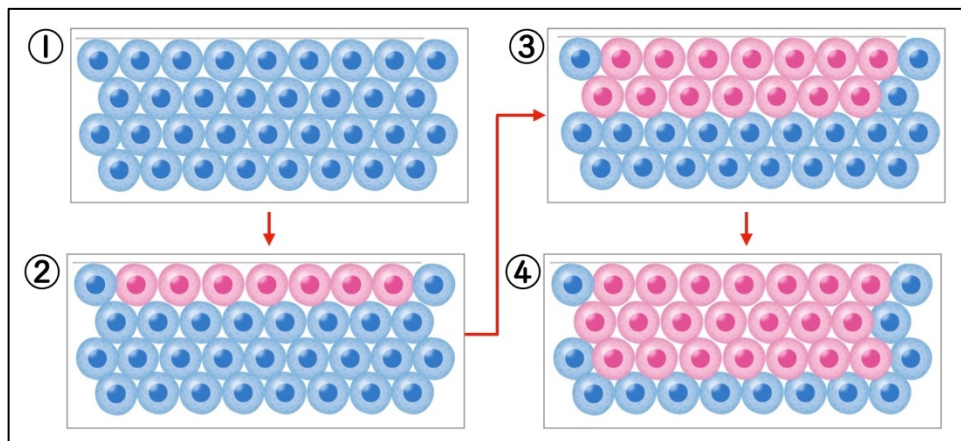
本人しか分からない部分：痛い、辛い、痒い、重い、違和感（気になる）
外からの負荷に対して：存在感（硬さ、冷たさ、物っぽいなど）



⑦ 力で進むのはやめましょう

細胞は一層一層焦らずにてあてをする

水色細胞（くすぶり細胞）の細胞の感触が意識に届き、受け取り報告をすると自然治癒力が働き、水色の細胞は次第にピンクに変わっていきます。オムニセラピーで扱うのは60兆の細胞全て。表面から芯まで全てです。焦らずに一層一層じっくりてあてをしていきます。



くすぶり細胞には決して無理矢理に侵入しない

無理な力で侵入するとクライアントの負担になり、長い目で見るとより頑（かたく）なになってしまいます。いつだってクライアントの細胞ファースト。こちらの勝手なペースや願望でセラピーを進めるのはご法度です。

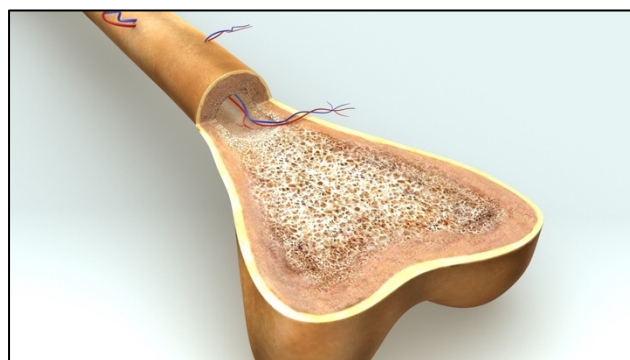


全ては細胞の集まり

体は 60 兆個の細胞の集合体です。オムニテアセラピーでは骨の感触を扱うことが多いですが、骨だけが大切なのではなく、骨の芯まで細胞が詰まっているので骨という表現を使っています。

骨の芯まで掘っていく

骨の芯まで元気なピンクの細胞にしていくには、焦らずに一層一層てあてを重ねていく事が大切です。3つの柱の環境作りでお話しする空気や水、栄養もピンクになっていく上では必要不可欠な要素ではあるのですが、てあても必要不可欠な要素です。バランスよく、てあてを続けながら環境も整えて行きましょう。



“どうせ”を“もしかしたら”に

くすぶり細胞は、今までもずっと今だけサインを意識に続けてきました。そして、自己治癒するためにクセや本能的な動作で元気になろうと何度も何度もチャレンジしてきました。しかし、“普通と違うから”、“みんなと違うから”、“悪いクセと言われているから”。そんな人間の勝手な尺度でチャンスを潰されてきました。くすぶり細胞は、今回も“どうせ”と思っているという前提で向き合う必要があります。丁寧に辛抱強く関わることで細胞の中に“もしかしたら”という期待、希望の光が差してきます。細胞との信頼関係を取り戻す姿勢。それがポイントです。

⑧ 全ての土台はセルフであて

セルフであて

オムニセラピーでは自分自身への施術を“セルフであて”と呼びます。

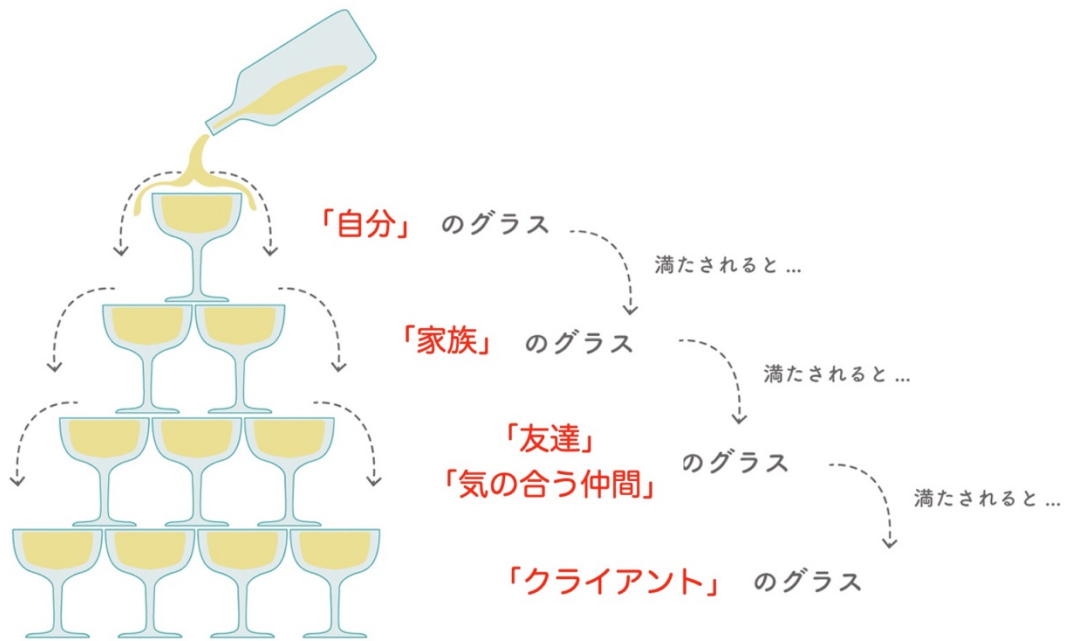
セルフであて、でかなりの段階まで進むことができる

自分で自分の施術ができる。それもオムニセラピーの特徴の一つです。そして、セルフであてでかなりの段階まで細胞を元気にする事ができます。それでは他人からのてあてを受ける必要が一切ないのでしょうか？経験値の答えはNoです。自分のてあてと、人にしてもらってあてで優劣があるわけではなく、自分以外の人に触ってもらう必要性があるようです。良い意味でのエネルギーの違いが必要なようです。人が孤立して自分一人だけで生きて行けないのと同様に、細胞も自分たちだけでなく、自分以外の細胞と交流が必要なようです。

あなたの在り方こそがセラピー

自分以外の人をセラピーする上で最も大切な事は、自分の在り方です。自分(意識)と細胞の関係をちゃんとしようとしているのか。細胞からの届け物をちゃんと受け取ろうとしているのか。

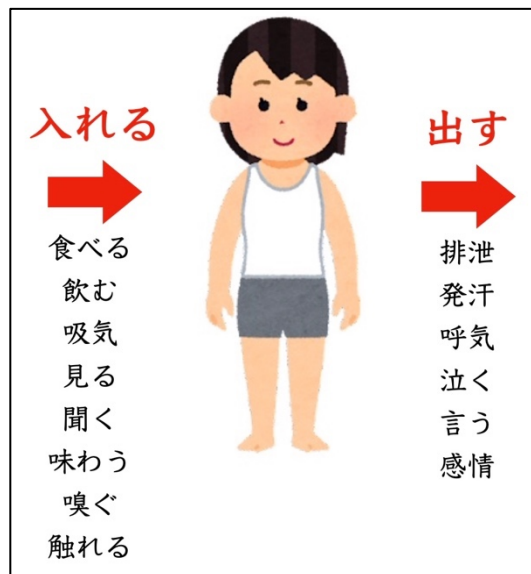
「出来ている」かではなく、「やろうとしているのか」その姿勢、空気が受けての人に伝染していきます。やり始めの頃は尚更です。どれだけ経験を積んでも、実績があっても結果に驕る事なく。セラピー以外の場面でも自分(意識)と細胞の関係をしっかり意識しましょう。



⑨ 細胞が元気になると

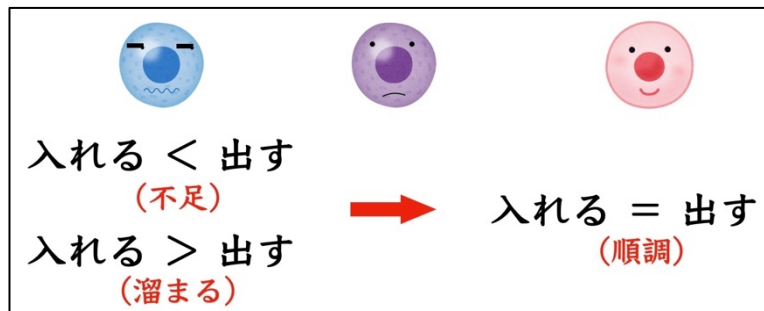
出して入れる

自然界は“出す”と“入れる”という営みを絶え間なく行っています。私の細胞も同様に、この出し入れという営みを行う為にそれぞれ役割を持って活動しています。



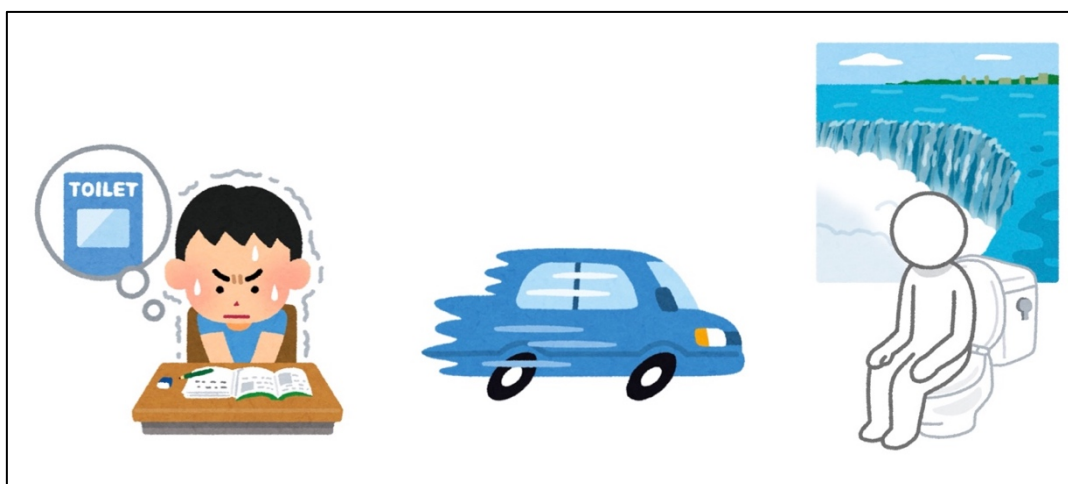
営みが正常化していく

細胞がくすぶり状態だとこの出し入れが不調になります。入れる量よりも出す方が多い“不足状態”。逆に入れる量よりも出す量が少ない“溜まっている状態”。それが時間と共に正常、順調な営みに移っていきます。



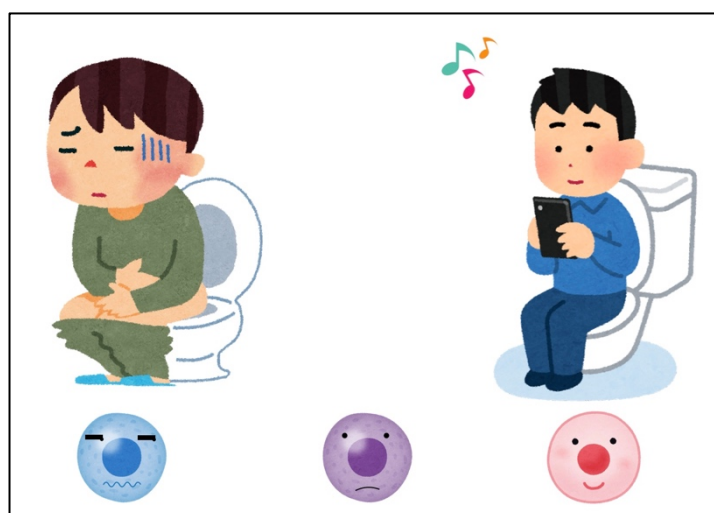
溜めていたものを出すことから始まる

溜め混んできた状態の人が殆どです。それが正常化していくと、まずは溜め込んできたものを出すことから始めます。下痢をしたり、吹き出物ができたり、本音が出てきたり、感情が爆発したり。



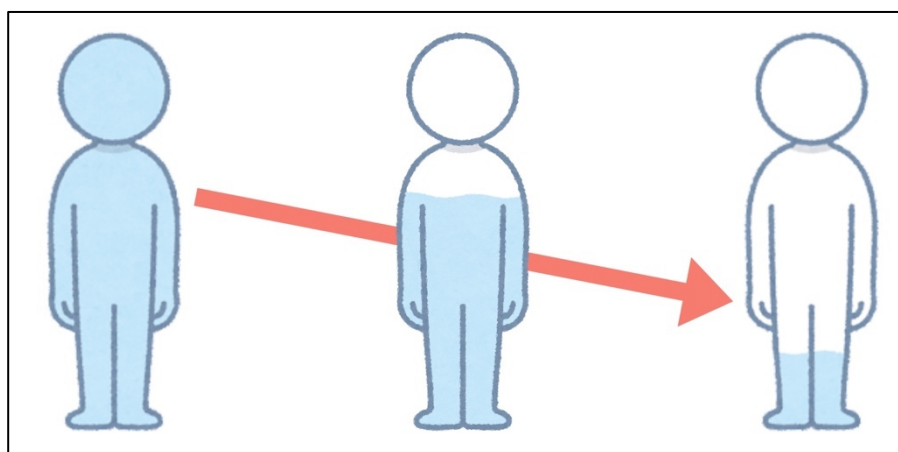
出てきたら出させてあげる

溜め込んできたものが出てきたら、原因探しをしたり、あれこれジャッジしたり意味付けしたりせずに、思う存分出させてあげましょう。さらにセラピーを重ねて細胞がピンクになる事で、出す辛さが軽減し、よりスムーズに最短期間で出し切る事ができるようになります。



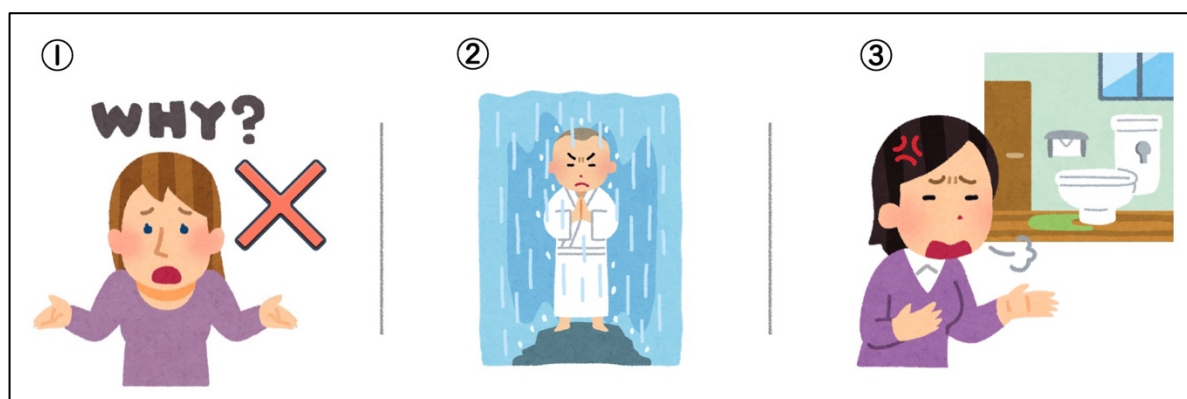
ピンクになっていくと

セラピーが進んで細胞が元気になり溜まっていたものの清算が進むと、人から出されるようになります。特に感情面での吐け口になりやすくなります。水が高い所から低い所に流れるように、溜まっている所から余裕のある所に流れていきます。



この時のポイントは、

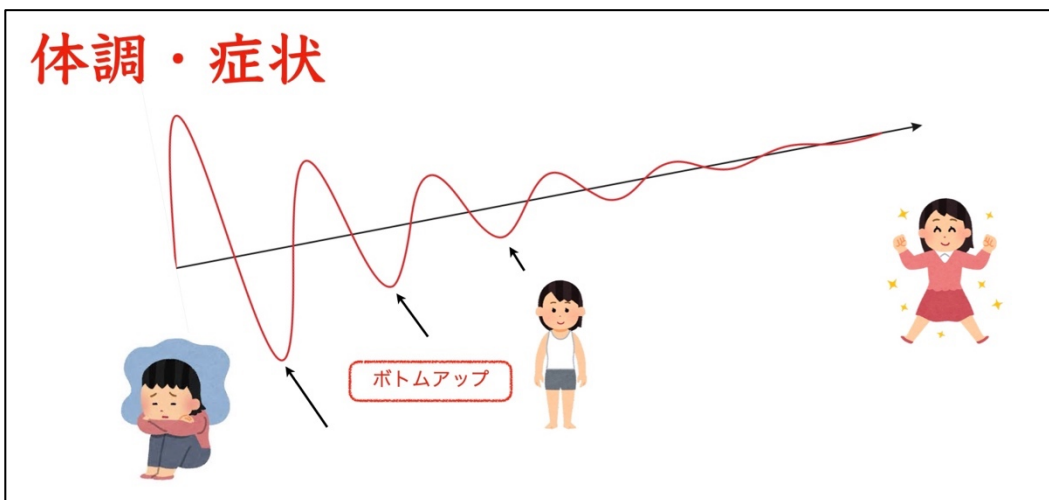
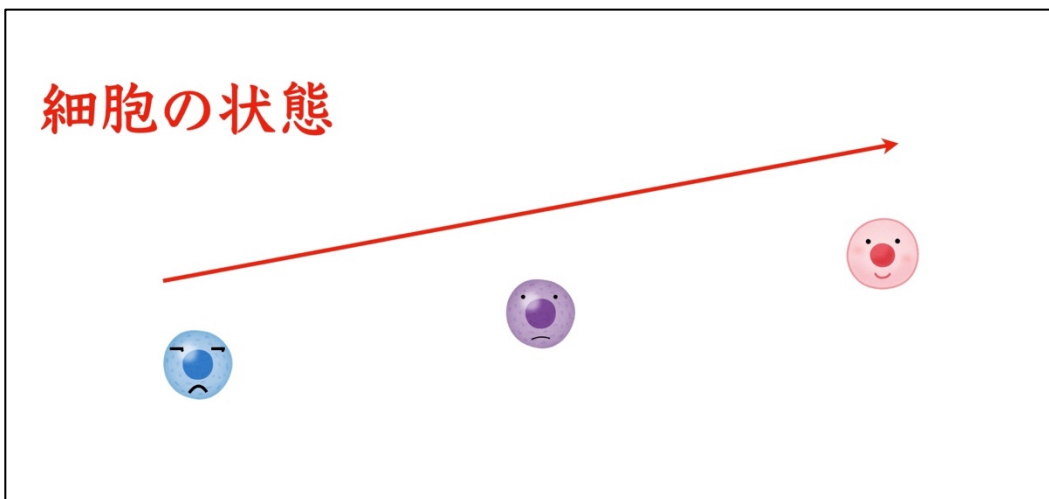
- ① 原因探しや、ジャッジ、意味付けしない
- ② 気が済むまで出させてあげる
- ③ 相手に投げ返すのではなく自分のトイレを確保



セラピーをした細胞は戻らない

オムニセラピーをすると細胞が自由に動ける状況になります。その結果、ピンクになりたい細胞は治癒していきます。そうして変化した細胞は逆戻りはしません。日常生活で冷やすなどの一時的に水色になっても自己治癒力が高まっていますので、速やかに元の状態に戻ります。

注意点としては、“細胞の状態”と“体調や症状”を分けて認識する事です。体調や症状は 60 兆個ある細胞の状態の足し算です。なのでセラピーをした細胞は元に戻る事はありませんが、症状は戻ったように感じる事があります。以下の曲線のようになります。

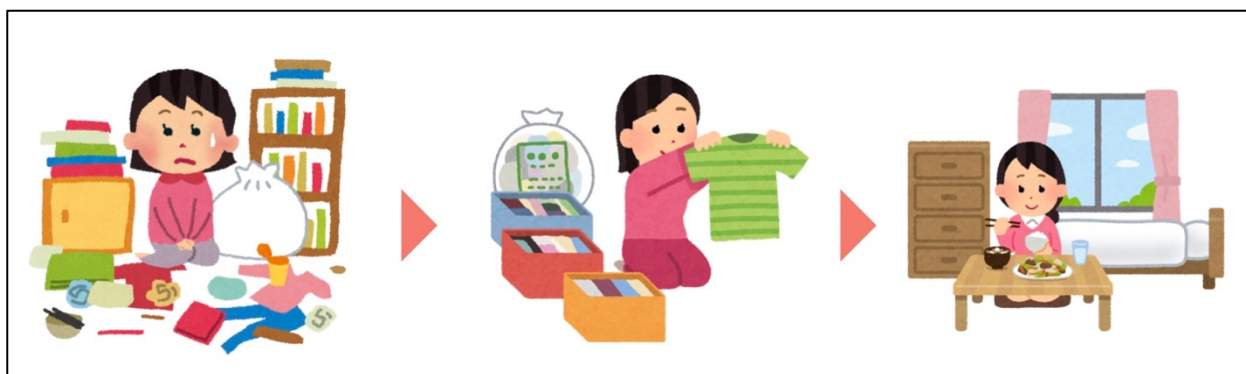
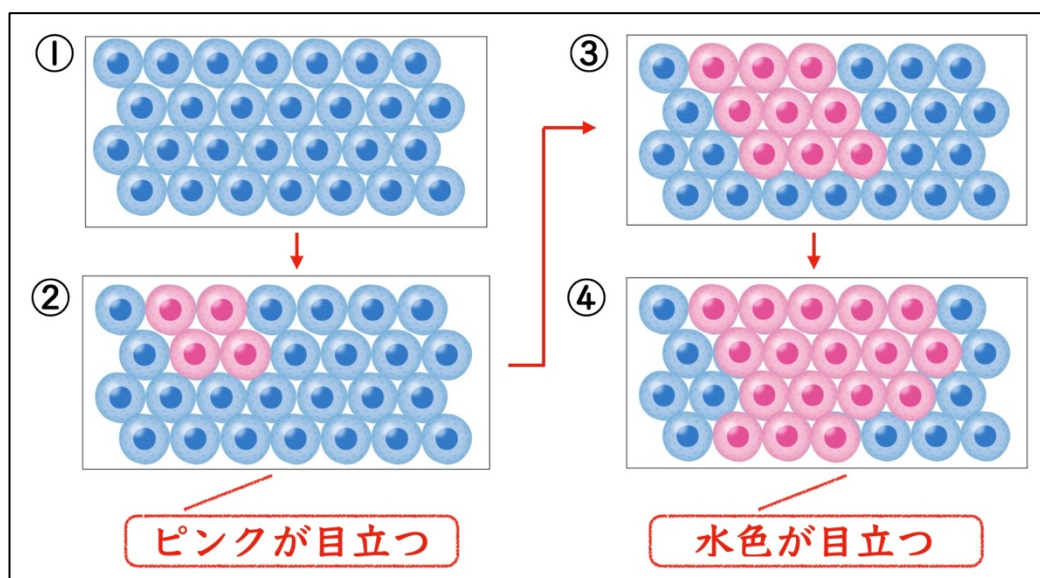


ピンクが増えると水色が目立ってくる

オムニセラピーをしていくとピンクの細胞が多くなっていきます。悩んでいた症状は徐々に軽くなるのですが、それにともなって起こる事があります。それは

残っている部分がすごく気になり始める

ということです。イメージとしては以下の通りです。目立っているという事は意識に届きやすくなっているという事です。このタイミングで意識の使い方をお伝えしてもよいかもしれません。



⑪ 細胞にとって最適な環境

細胞活動に不可欠な要素

細胞活動に影響する要素を考えると、ポイントになるのが“無くなると死ぬもの”を考える事です。なくなったら死んでしまうもののランキングが、そのまま細胞の活動への重要度ランキングになります。これらの質が落ちるか、もしくは量が不足すると細胞は動きが鈍くなります。

重要度ランキング

(供給されなくなってから細胞が活動停止するまでの時間)

1位 **空気**
(数分)

2位 **水**
(約5日)

3位 **栄養素(五大栄養素)**
(約30日)



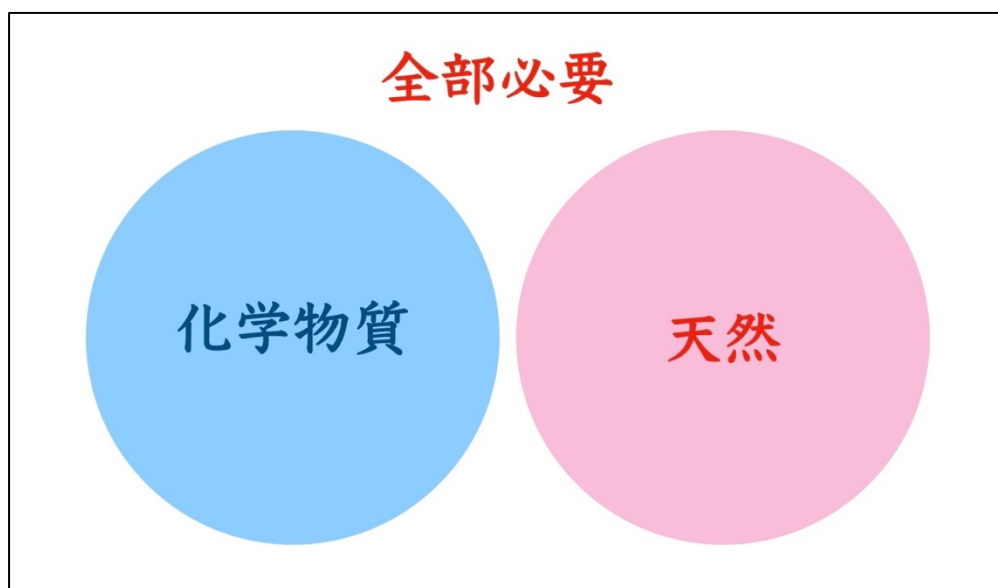
大切な注意事項

さてこれから空気・水・栄養素の話をしていきますが、ここで注意点があります。今までの細胞や三位一体の話と違い環境面の話はとても身近で普段の暮らしを通して各固定観念があるという事です。世の中に様々な情報が溢れ、そして様々な経験をしてきています。

正しい、間違っている。良い悪い。などジャッジが入る余地がたくさんあります。本題に入る前に、一般的に悪のように扱われがちな化学物質や農薬などに対してのオムニセラピー的な解釈を明確にしておきたいと思います。

全ては必要があって存在している

天然のものも、化学的なものも全てのものは必要があって存在している。とオムニセラピーでは考えます。天然には天然のものでしか実現しできない働きがあり、化学物質には化学物質にしかできない働きがあります。



化学物質の成り立ち

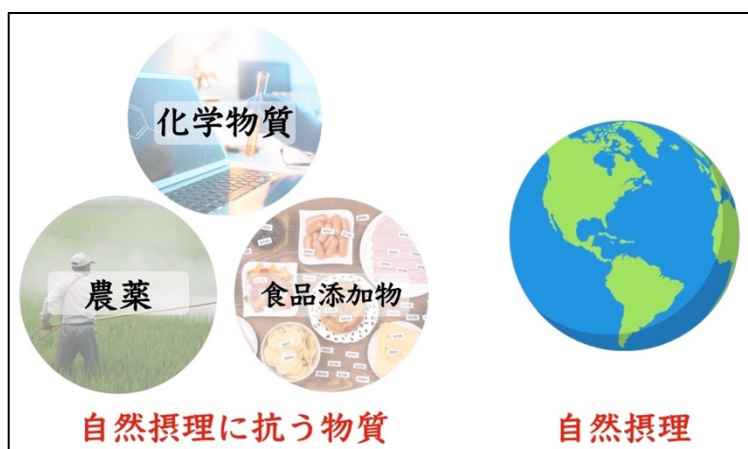
化学物質や農薬、添加物などの必要性、そしてその働きの特徴はその成り立ちを考察すると明確になります。

人類は今すぐにでも化学物質を始めとする化学的なものを止める事ができます。ただし、自然摂理に任せて生きる事ができるのであれば、です。数百年前まではこの世界に化学物質は存在していませんでした。科学力がなかったからです。

それまでは自然摂理に沿った生き方をしていました。自然摂理に沿った生き方とは、自然のリズムと共に生き、死に抗わず、運命を受け容れ、あるがままの生き方です。

現代人の技術力の発展と共に、必要があって開発されたのか、偶然産まれたものを使ってみたら便利だったのかは分かりませんが、とにかく化学物質はこの世に現れました。

自然摂理のままではよければ、必要のない物質。それが化学物質であり農薬などです。つまり、自然摂理に抗う物質。それが化学物質であり、農薬であり、添加物です。良いとか悪いとかではなく、そういうものです。



化学物質は悪なのか？

化学物質がなければ、人の人生は短いでしょう。
現代の科学力がなければ、生活は数段不便になるでしょう。
医療がなければ、風邪で命を落とす事もあるでしょう。
防腐剤がなければ、ものはもっと早く腐り食品は高くなるでしょう。
農薬がなければ食物の確保が不安定になり飢饉で死ぬ事もあるでしょう。

良い悪いではなく、そういう事なのです。化学物質だから悪。害。そういうのはあまりにも早計です。

そして、自然摂理に抗うから悪い訳でもありません。細胞は時にはブレーキをかけたり、浄化の為に呼水としてわざと取り込む事もあります。



ブレーキとアクセルは細胞が決める

ブレーキとアクセルは細胞がその都度決定します。そして、細胞がその時に求めているものを邪魔せず取り込むようにする。それがポイントです。



細胞が求めている

美味しい
いい匂い
肌触りがいい
いい音
目を惹かれる

細胞が求めてない

美味しくない
匂いが嫌
肌触りが嫌
音が嫌い
見た目が嫌



細胞が水色だどこの感度も鈍る



細胞がピンクになっていくと感覚が戻る



自分の好み分かりやすくなる
わがままに見られがちになる

そしてピンクになっていくと、
抗う物質を求める量が減っていく傾向があります

大切なのは、今の自分がどう感じるか。
それに抗わないこと

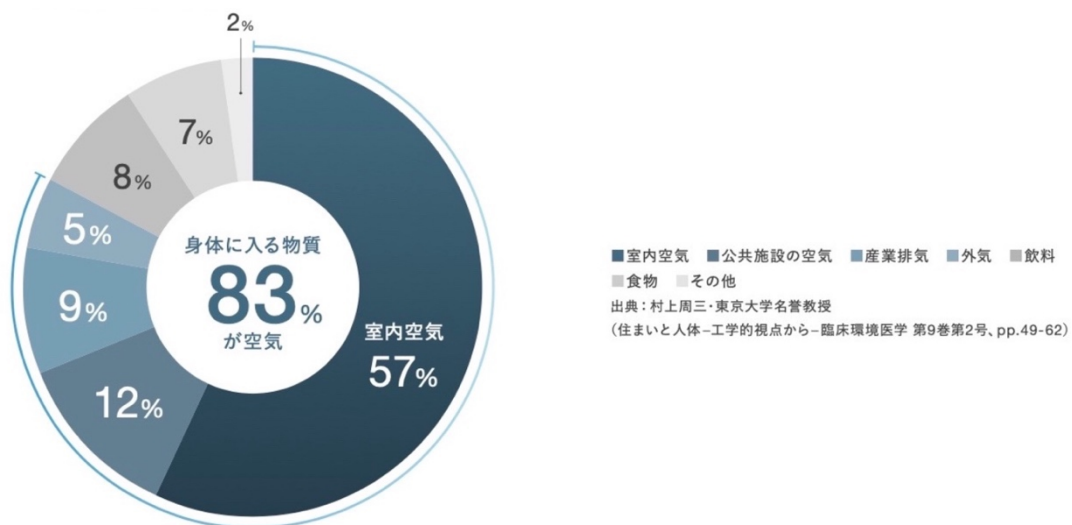
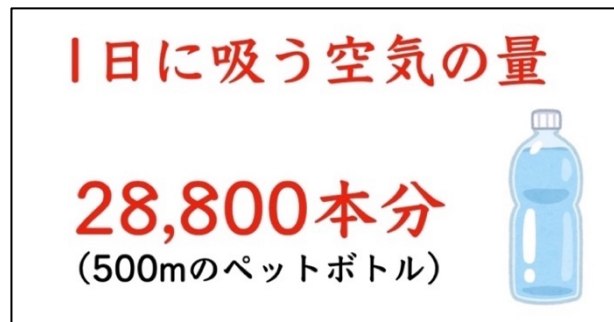
それでは空気、水、栄養素の話をしていきましょう

空気

空気つまり酸素です。酸素がないと数分で細胞は死んでいきます。特に活発に動いている部分であればある程その重要度が上がってきます。脳に酸素がいなくなると重い障害が残るのもその表れです。

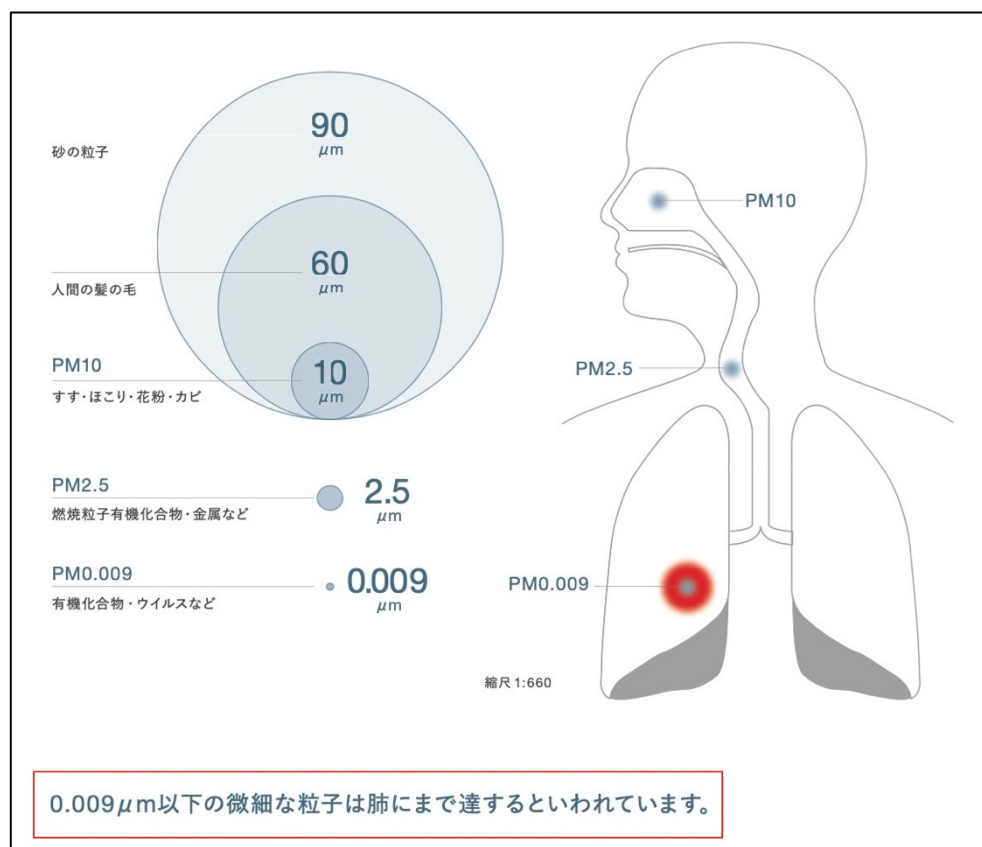
人体と空気

1日に吸う空気の量は500mlのペットボトルで換算すると28,800本分になります。重さで比較すると、食べ物は全体の7%、飲み物は8%、空気は83%になります。



空気の特徴

空気は呼吸によって取り入れられます。水や食品と違い肝臓の解毒機構を通らずに肺から直接血中に入るため、健康への影響が大きいとされています。

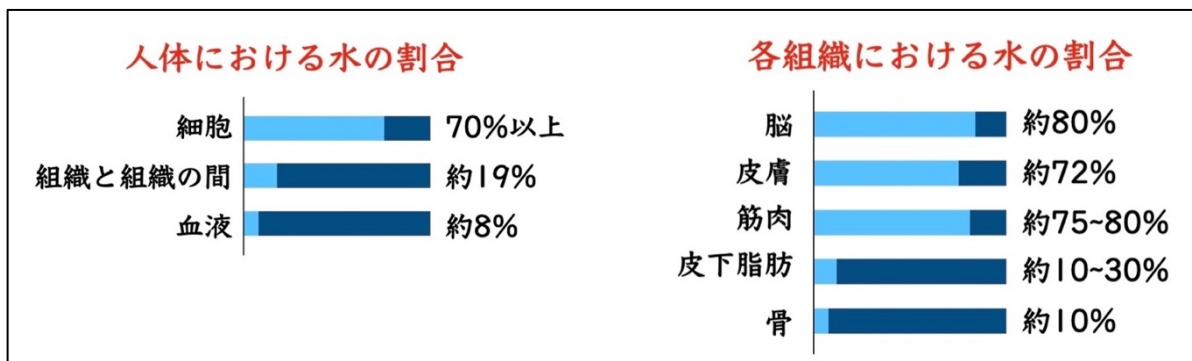
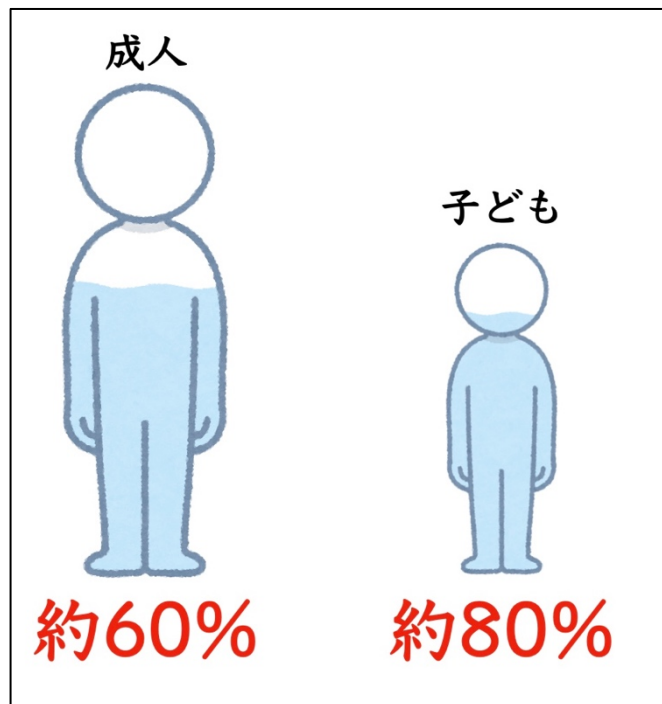


空気の現状

WHOの発表（2016年発表）によれば、全世界の92%の人が人体に危険なレベルの大気汚染にさらされているそうです。そして、隣国である北朝鮮や中国は、深刻な大気汚染ワーストランキング上位国です。その空気は偏西風によって日本に運ばれます。それだけ抗う物質が多いという事です。

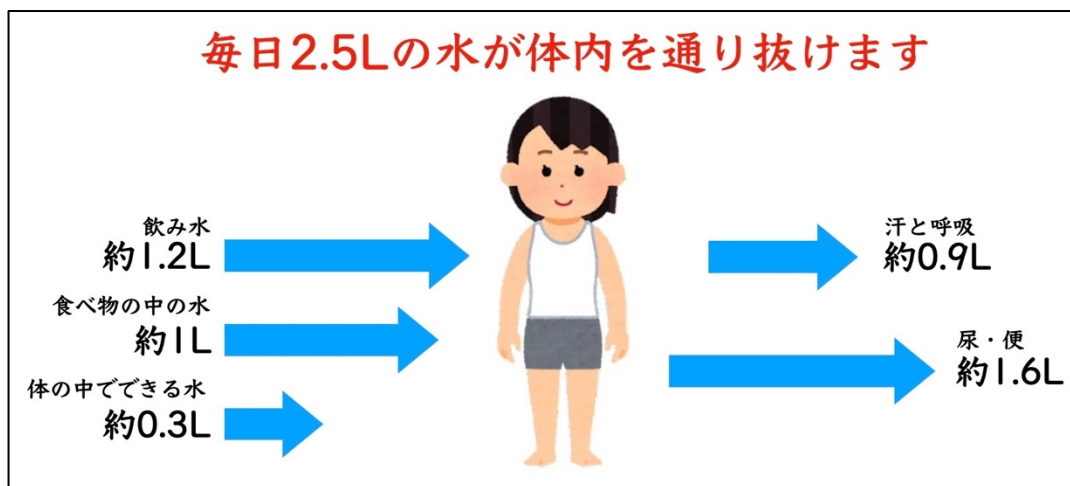
水

水を摂取しないと約5日で細胞は死んでいきます。体の60%は水でできています。ここで注意なのは、体はH₂Oとミネラル分を求めているのであって、水に何か添加されたものを求めているのではないという点です。水と水分は異なるものなのです。



1 日で 2.4L の水が体内を通り抜けている

私たちの体は 1 日で 2.4L の水が通過しています。いわば体・細胞の洗濯をしています。



水が不足すると。。。

生命活動において水は重要な役割を果たしています。その水が不足するとどうなるのでしょうか

水分減少率 (体重に占める割合)	主な脱水症状
2%	のどの渇き
3%	強い渇き、ぼんやりする、食欲不振
4%	皮膚の紅潮、イライラする、体温上昇、疲労困ぱい、尿量の減少と濃縮
5%	頭痛、熱にうだる感じ
8~10%	身体動揺、けいれん
20%以上	無尿、死亡

水の現状

空気と同様に水も深刻な状況にあると言えます。そして水道事業の民営化に伴い更に深刻化する恐れがあります。現状については各自で検索してみてください。



栄養素

栄養(えいよう)とは、生物が体外(外界)から物質を摂取し、それを体を構成、維持する生活活動を行うなどするのに役立たせる現象。大正以前は「栄養」と表記されることも多かった。なお、「栄養」は体外から取り入れられる物質のことも指しているが、取り入れられる物質はより厳密には「栄養素」と呼ばれる。

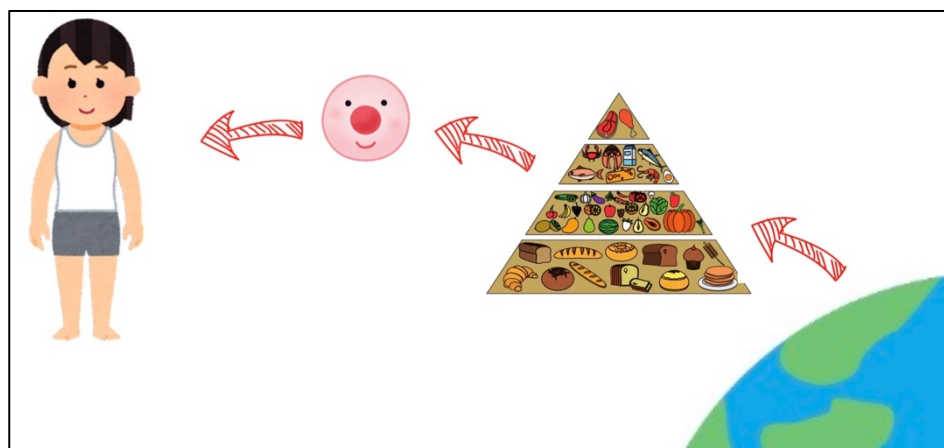
营养 → **栄養**
(大正以前)

体の営みそのものを栄養と呼び、その営みに必要な要素を“**栄養素**”と定義づけました。

栄養の3段階

第1段階	食べ物や飲み物を体内に取り込む
第2段階	体が食物や飲み物を栄養素に分解する
第3段階	栄養素が血流を通過して体の他の部分にまわり、「燃料」(エネルギー源)としてあるいは他の目的(体の組織を構成するためなど)に使われる

オムニ的に表現すると、栄養素は細胞の活動に必要な不可欠なものです。つまり細胞は栄養素が不足すれば不足したなりの活動しかできなくなります。



五大栄養素

人間が生命維持の為に必要な成分を五大栄養素と呼びます。糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルを指します。これに食物繊維とフィトケミカルス（カテキンやリコピンなど）を加えて七大栄養素と呼ばれるようになってきました。

五大栄養素

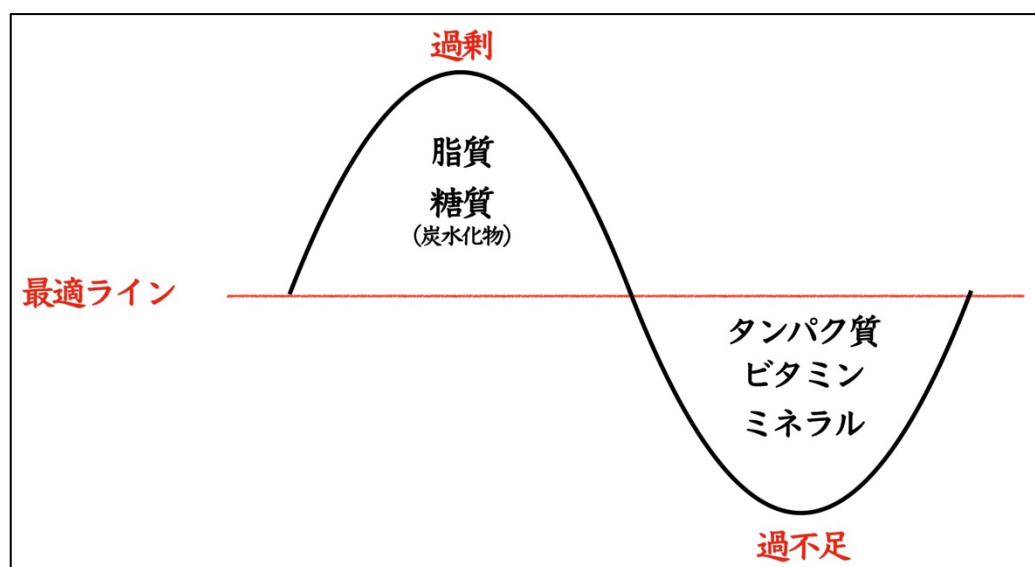
糖質
脂質
タンパク質
ビタミン
ミネラル

七大栄養素

+ 食物繊維
フィトケミカルス

新型栄養失調的

現代日本の全般的な傾向性としては、糖質・脂質が過多。
たんぱく質・ビタミン・ミネラルが過不足。日本人はちゃんと
食べているのに栄養バランスが悪い、『新型栄養失調』と呼ばれて
います。



質の現状

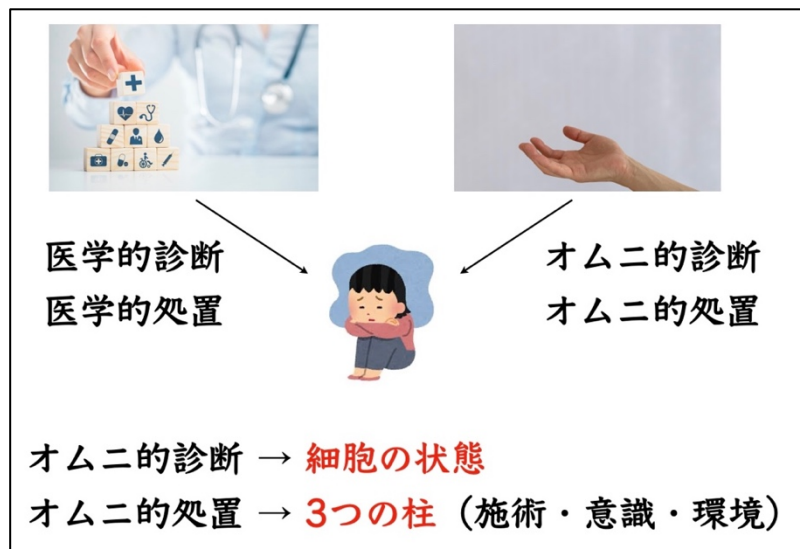
空気、水と同様に化学物質など細胞の活動に不要なものが混入し
過ぎている。それに加えて、農作物の栄養価が著しく落ちている。

三食食べているから大丈夫。という過信は要注意です。細胞に負担
ない栄養素を細胞が必要なだけ供給してあげる事が大切です。

⑪ 症状とどう向き合うのか

座学の“⑩医療とてあて”

症状との向き合い方のベースは座学⑩のままです。てあては、てあて。医療は医療。他の何者かになろうとする必要はなく、オムニセラピーとして体の状況を触って見極めて、そして施術・意識改革・環境作りの3方向からクライアントのサポートをしていきます。



3つの方向全てに変化が現れる

セラピーをしていき細胞がピンクになっていくと、肉体面での変化だけでなく、考え方や意識、口癖などの意識面。そして、環境である生活面にも変化が現れます。クライアントには自由に気持ちのままに過ごして頂き、気持ちが向くものを気が済むまでやってもらいます。そうする事で、自然と選ぶ行為や欲求の方向が変化していくのが見えやすくなります。

正しいことではなく、快適・安心を感じることを

知識的な部分が多くなると、答えを知ったような感じになり焦りから無理にピンクの細胞のような立ち居振る舞いをしたくなる、もしくははしがちになる事も多々あります。お話しているのはあくまでそうなるという可能性が高いという未来予想図の一つ。瞬間瞬間、正しさではなく、その時の自分にとって快適・安心感がある方向に進んでいきましょう。遠回りに見えて、それが一番最短距離だったりします。



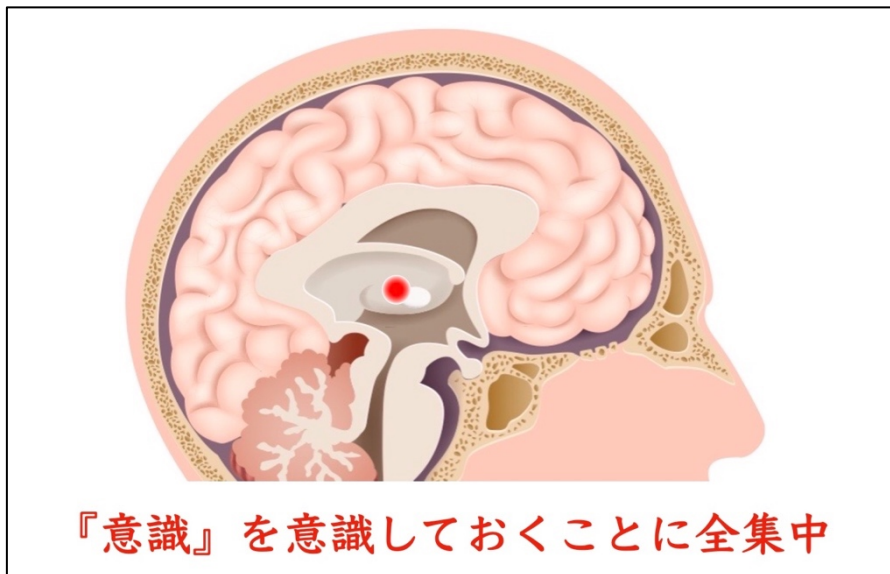
超実践

この章では超実践的な事をまとめてあります。ここでまとめてある事を一つ一つ繰り返しで自分の血と肉にしていってください。今まで学んできた事を『実践の場』という軸で再び要点をまとめ直します。以下の3つがポイントです

- ① とにかく意識に全集中
- ② 作用点の仕組み
- ③ 優先順位

① とにかく意識に全集中

あなたは意識であり意識としての役割があります。細胞には細胞の仕事があります。意識としての私たちの仕事は、居るべきところに居る事です。兎にも角にも『意識を意識する』この一点です。

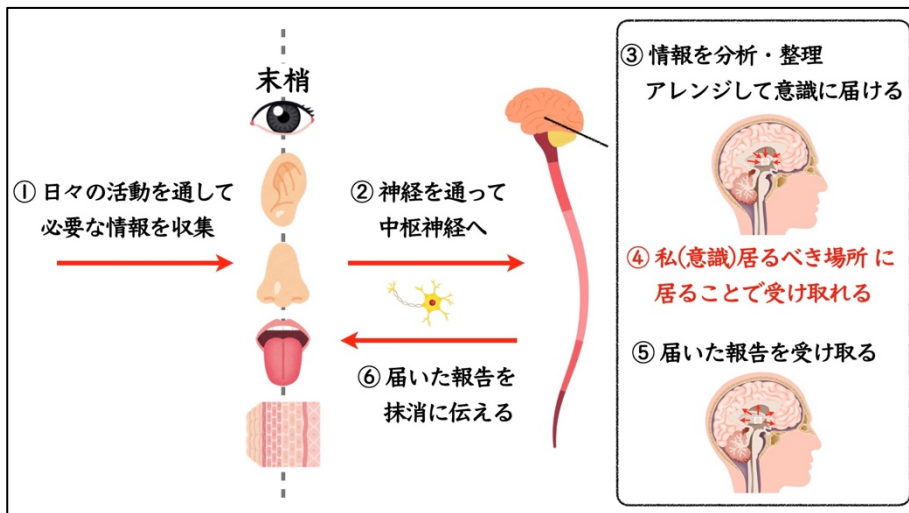


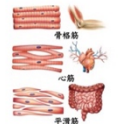
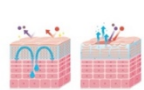
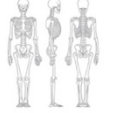

体に宿ると魂は
意識になる



細胞(体・精神)+意識(魂)で生きている

私（意識）の役割と細胞の役割を認識して、それぞれの役割に徹します。この徹し具合がセラピーの効果に直結します。感じることも、考えるも全部細胞の仕事です。私はそこに居続けること。それが最大にして唯の役割です。



筋肉 	体を動かす、体を安定させる、衝撃吸収 血管・臓器の保護、血液のポンプ、免疫を上げる ホルモンの生産、水分を蓄える
皮膚 	保護作用、呼吸作用、分泌・排泄作用、体温調整 吸収作用、知覚作用、表現作用
骨 	身体を支える、運動の支点、内臓を守る、血液を作る カルシウムを蓄える
神経 	① 皮膚や身体の様々な部位から情報を脳に送る ② 送られてきた情報を分析・整理・判断し、その情報に応じて決定をくだす。 ③ その決定を末梢に伝える。

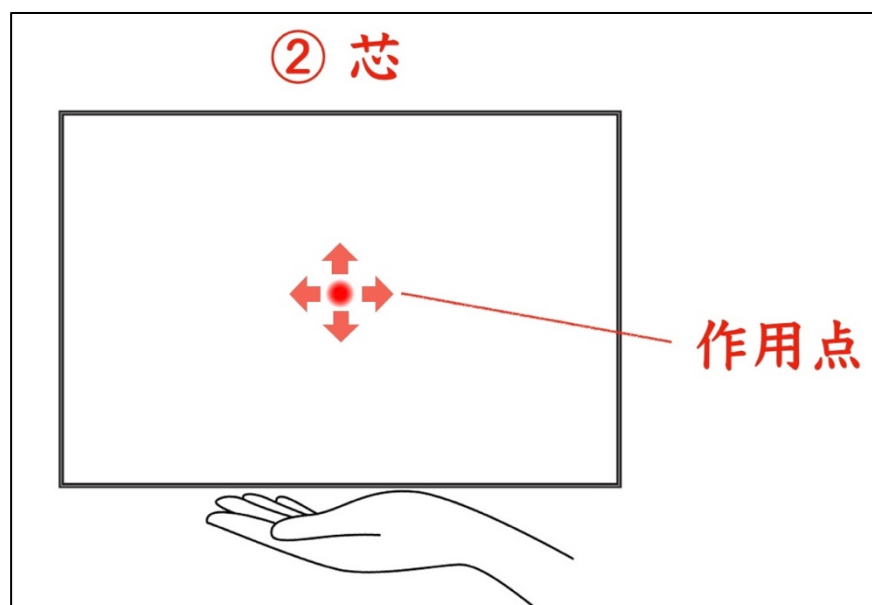
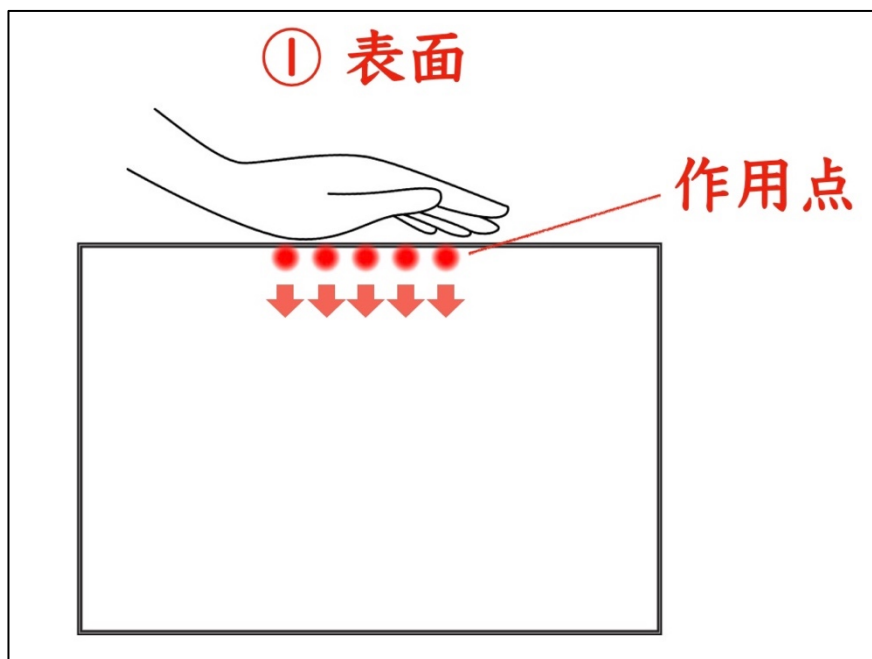
意識がそこに居ることで歯車が噛み合う

意識がそこに居る事で、集合意識・意識（私）・細胞（体）の歯車が噛み合いストーリーが動き始めます。意識は宇宙と地球の架け橋とも言えます。

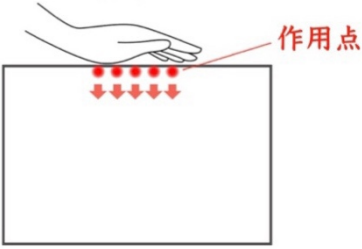
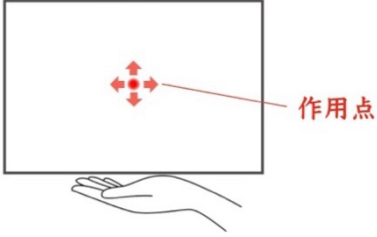


② 作用点の仕組み

セラピーが作用する点を、作用点と呼びます。この作用点には大きく分けて2つあります。



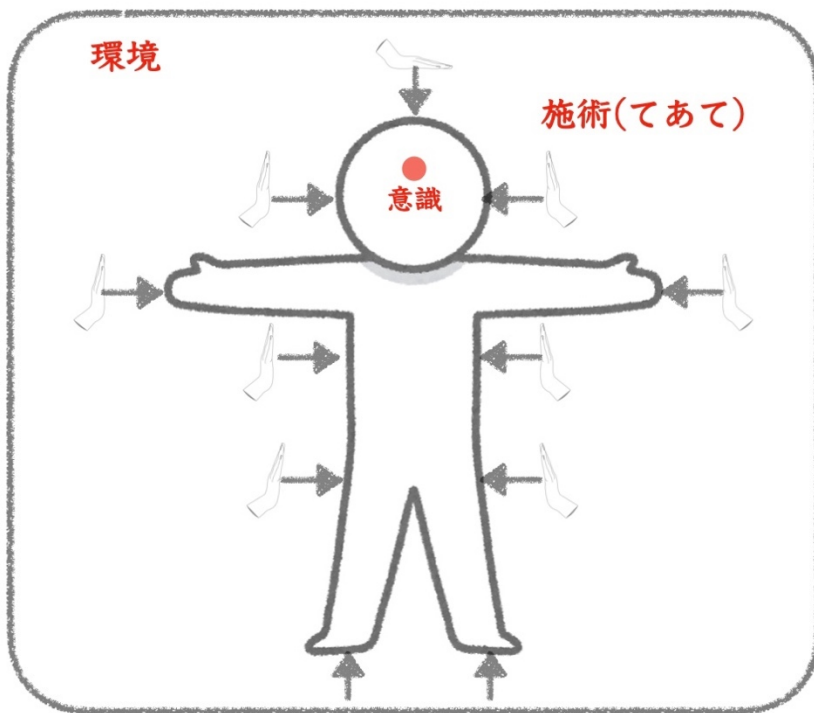
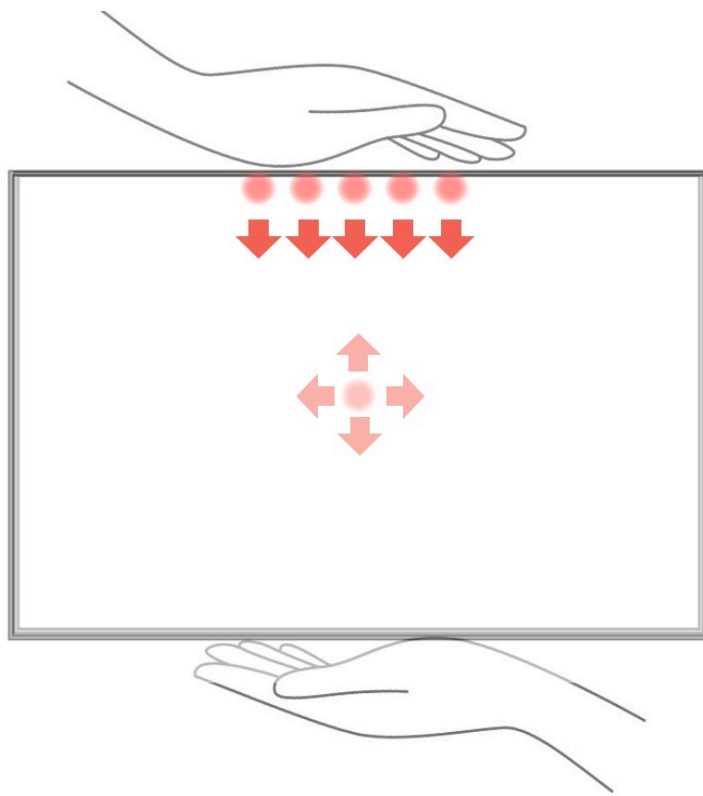
2つの作用点が働く原理は以下の通りです。五感にまつわるものは表面優位。外力が働く場合は芯優位になります。

<p>① 表面</p> 	<p>触覚=てあて 視覚、聴覚 嗅覚、味覚 ※つまり五感</p>
<p>② 芯</p> 	<p>重力=重心を感じる 引っ張る、圧力 揺らす、打診 ※つまり外力</p>

表面と芯を同時に。というよりも交互、もしくは必要に応じて使い分けて行きましょう。ここでの注意点は五感も外力も

感じようとする必要はない

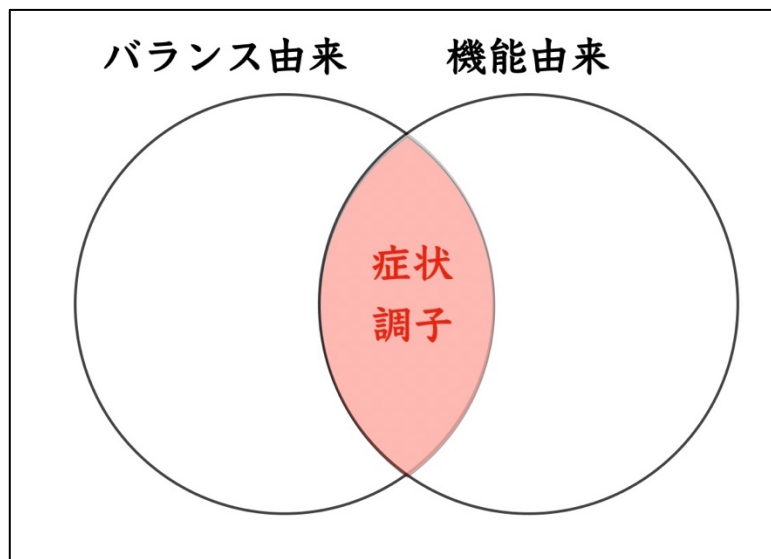
という事です。



③ 優先順位

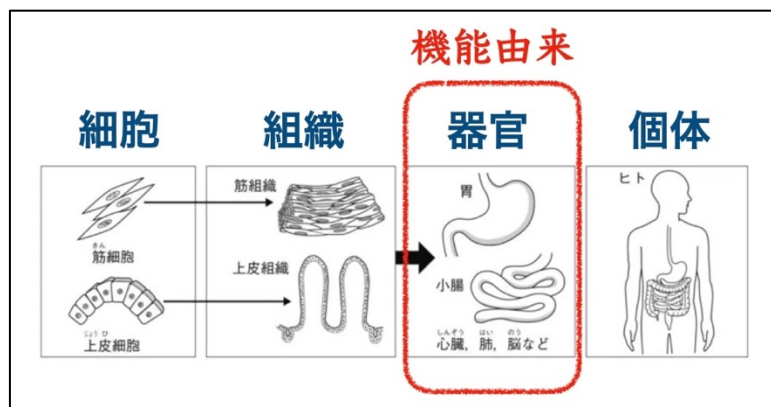
バランス由来と機能由来

不調を診ていく上で考えないといけないものが、不調にはバランス由来と機能由来がある。という点です。



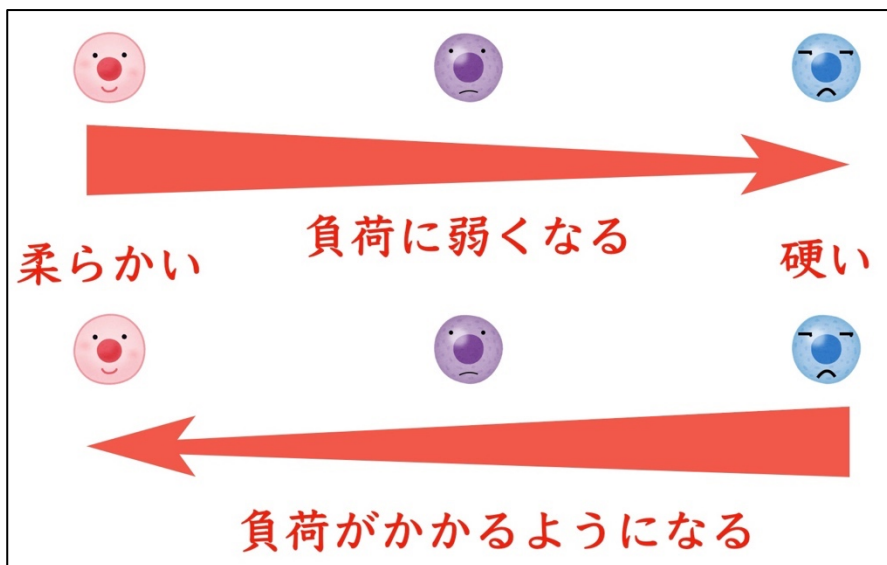
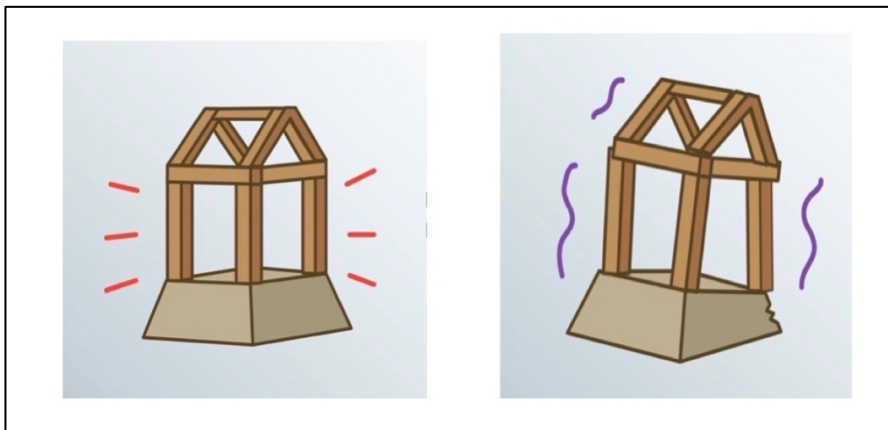
機能由来

機能由来とは文字通り、そのものの機能が低下しているという意味です。その機能を果たす細胞が本領を発揮できていないが故に起こる不調です。



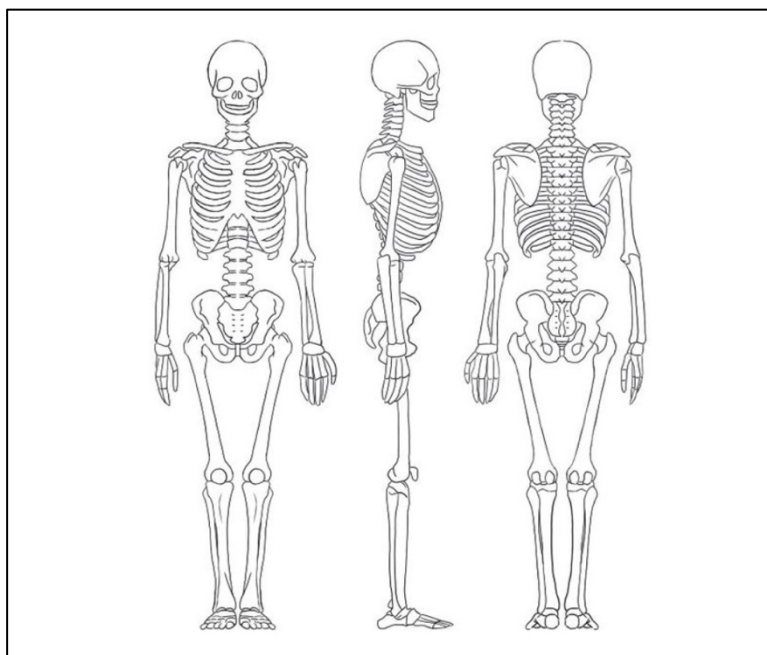
バランス由来

バランス由来は骨格の歪みからくる不調です。家を建てる時と同じで骨格は柱や梁です。この骨格がきちんとした状態で初めてデザイン通りの機能が発揮できます。そして、オムニセラピーの真骨頂として骨の細胞によって負担への対応の仕方が変わる。骨にも硬い、柔らかいがある。という点があります。



骨の重要性

私たちの体はすべて細胞でできています。皮膚も筋肉も内臓も骨も細胞でできています。皮膚や筋肉、内臓は水分量が多い為、温めればすぐにピンクになります。そして、体温があるので水色になる事ありません。それと違い骨は水分量が少なく硬い素材でできているので水色に近い状態になりやすく、ピンクにもなりにくいのです。ですので、セラピーでは骨に着目する事が多くなります。



骨の役割

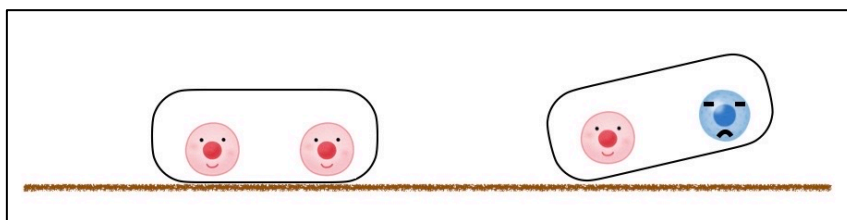
身体を支える、運動の支点、内臓を守る、血液を作る、カルシウムを蓄える事が多くなります。

身体を支える この役割が優先順位を決定づけます

ピンクの細胞と水色の細胞

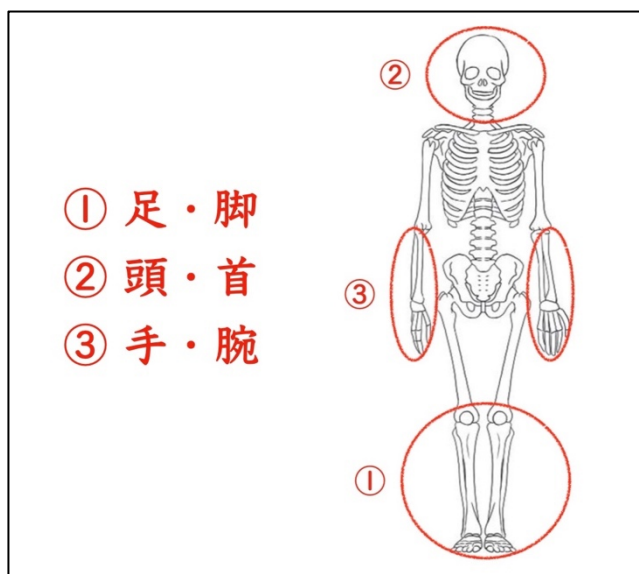
骨の細胞が水色の場合、硬くて、ゴツゴツしていて、元気がないので負担をできるだけかけないようにになります。負担をかけ続けると壊れてしまうからです。できる限りピンクの細胞に負担を逃そうとします。その結果起こるのがいわゆる“歪み”です。

てあてによって細胞がピンクになっていくと体重のかかり具合が変わり、どっしりと平均的に体重を分散できるようになってきます。

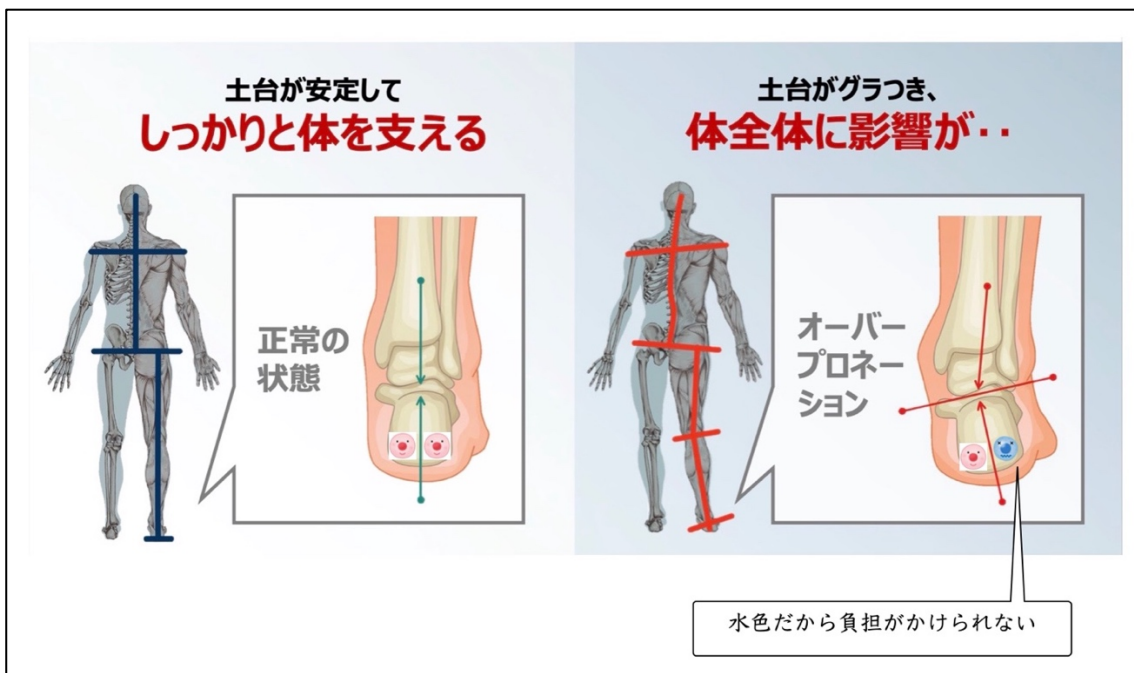
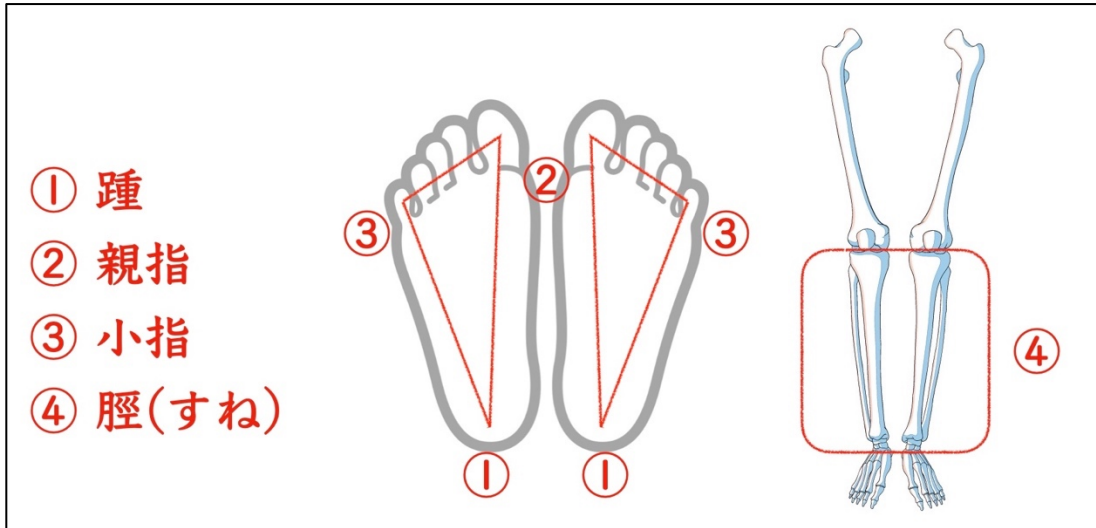


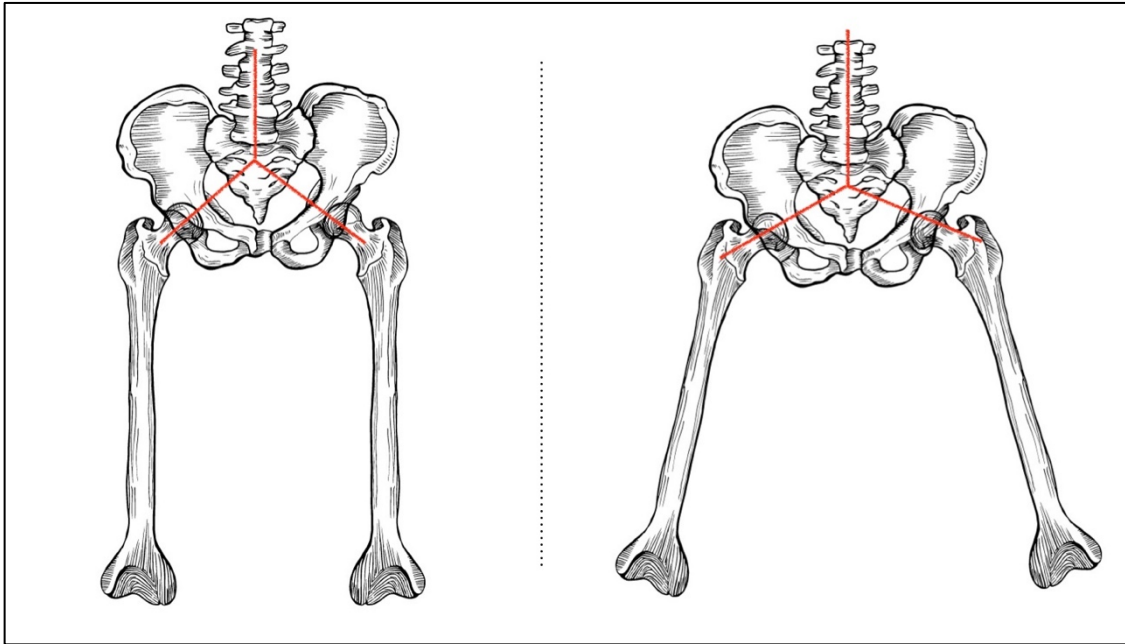
全身での優先順位

骨は全身で 206 個あります。2 足歩行で生活している人間は構造上の優先順位があります。それはどんな症状に対しても言える事です。

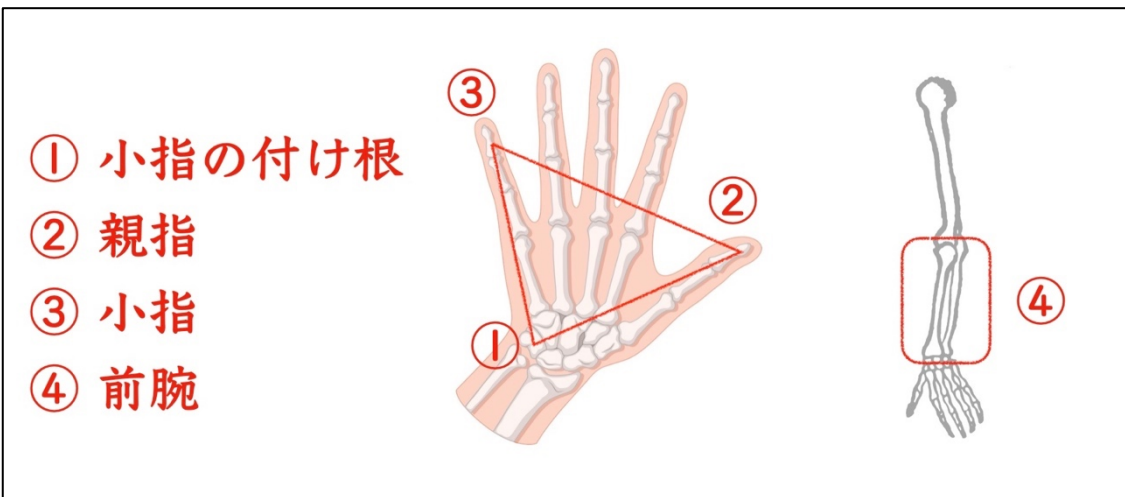


足・脚の中での優先順位





手・腕の中での優先順位



頭・首の中での優先順位

- ① 後頭骨
- ② 側頭骨
- ③ 下顎骨



③

②

最後に

この手引書はオムニセラピーの全てを記したものです。オムニセラピーは、テクニックではなく自然摂理の一部なので知識的理解よりも実践で掴んでいくものです。わからない、自信がない、不安、だからこそ自分の体やご家族や知人を触ることで練習を積んで行ってください。できるかどうか大切なのではなく、出来ないなりにやろうとしている。その姿勢こそが大切です

こうしてこの手引書があなたの手元にきたということは、オムニセラピーとの縁があることは事実で。あなたがてあてを選んだように、オムニセラピーもあなたを選んだのです。その揺るがない事実を胸に。一緒にてあての道を深めていく事ができたらとても嬉しいです。

わかりにくい表現や、誤字脱字がありましたらどうぞご質問やご指摘ください。てあてが求めている人の元に届きますように。一家に一人オムニセラピーができる人。それを実現するべく精進してまいります。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

日本オムニセラピー協会代表
小見 聡